

國學院大學學術情報リポジトリ

1910年の社会主義インターナショナル第8回コペンハーゲン大会とフランス社会党第5回トゥルーズ大会(1908年)、第6回サン-テティエンヌ大会(1909年)、第7回ニーム大会(1910年)の歴史的考察(2・完)

メタデータ	言語: 出版者: 国学院大学法学会 公開日: 2024-02-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横山, 謙一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000405

1910年の社会主義インターナショナル第8回コペンハーゲン大会とフランス社会党第5回トゥルーズ大会（1908年）、第6回サン・テティエンヌ大会（1909年）、第7回ニーム大会（1910年）の歴史的考察（2・完）

横 山 謙 一

第5章 1910年の第7回社会主義インターナショナル・コペンハーゲン大会と反戦平和の問題

第1節 第7回社会主義インターナショナル・コペンハーゲン大会開会式（第1回全体会議）

第7回社会主義インターナショナル・コペンハーゲン大会⁽⁸⁵⁾はシャルル・ロンゲによって「とりわけ実務的な作業の大会 surtout un Congrès de pratique⁽⁸⁶⁾」と形容され、ヴァンデルヴェルドからは「もしあまりに激烈なあの急失速 à-coup を受けていなければ第2インターナショナルの頂点への移行の、平和の希望の高揚の、社会主義が持続して台頭する熱狂的展望⁽⁸⁷⁾の」大会

(85) この大会の議事録は Secrétariat du Bureau Socialiste International ; *Huitième Congrès Socialiste Internationale tenu à Copenhague du 28 août au 3 septembre 1910. Compte Rendu Analytique*. Gand, 1911 を参照した。

(86) LONGUET, Jean ; *Le mouvement socialiste international. Encyclopédie socialiste syndicale et coopérative de l'Internationale ouvrière*, tome V. Paris, Quillet, 1913, p. 63

2 (239) 1910年の社会主義インターナショナル第8回コペンハーゲン大会とフランス社会党第5回トゥルーズ大会(1908年)、第6回サンテティエヌ大会(1909年)、第7回ニーム大会(1910年)の歴史的考察(2・完)(横山謙一)

になったであろうと回顧している。

この大会は開催地委員会 *comité local* が国際社会主義事務局 BSI の援助を受けて組織化の作業をおこなった。大会開催に先だって、この大会の準備のために1909年11月7日に最初の国際社会主義事務局 BSI の最初の会議がブリュッセルの人民会館 *Maison du Peuple* で開催され、執行委員会 *Comité exécutif* が定めた議事日程である 1. 農業問題、2. 政党と生活協同組合の関係、3. 労働者立法の国際的諸結果、4. 資本家階級と闘う政党への救援組織、5. 軍事費の削減のうち第1の議題を削除して、1. 政党と生活協同組合の関係、2. 失業問題、3. 仲裁と軍縮、4. 労働者立法の国際的諸結果、5. 死刑に反対する国際的示威行動の組織化、6. インターナショナル大会決議を迅速に執行するためにとられるべき手続きの6つの議題に変更した。最終的には大会当日に5つの委員会にまとめられ、国際社会主義事務局 BSI 事務局議長は 1. 生活協同組合、2. 連帯とチェコ問題、3. 仲裁と軍縮、4. 労働者の保障、失業、社会政策、5. 諸決議(死刑、フィンランド、ベルシア、アルメニア)の5委員会の設置を大会に求めた。

1910年3月には実行委員会は国際社会主義事務局 BSI の決定を要約した招請状 *circulaire d'invitation* 参加する諸組織に発送した。同年7月と8月に国際社会主義事務局 BSI は議事日程が掲げる問題についての決議案と注釈を国際社会主義事務局の通信 *bulletin* 第3、4、5、6号に掲載した。そして開催地委員会の同意を受けて国際社会主義事務局 BSI は次のような議事次第を作成した。

8月26日(金曜日) 午前10時 「騎士コンサート・パレス *Odd Fellow Palæet*」にて国際社会主義事務局 BSI の

(87) VANDERVELDE, Émile ; *Souvenirs d'un militant socialiste*. Paris. Éditions Denoël. 1939. p. 168 ヴァンデルヴェルドはアムステルダム大会を各国支部に共通の指令を与える超大政党を誕生させた大会であったとシュトゥットガルト大会は諸国民を戦争の殺戮に導いた軍備拡大を食い止めようとしたジョレースの名が刻まれた多大な努力の出発点であったと表現している。超大政党とはフランス社会党 SFIO を指す。 *Ibid.*, p. 168

会議

- 8 月 27 日 (土曜日) 同所にて国際社会主義事務局 BSI の会議
- 8 月 28 日 (日曜日) 午前 10 時 大会開会式
500 人の労働者による合唱
午後 スナマーケン公園 Sondermarken での集
会と民衆祭典
- 8 月 29 日 (月曜日) 午前 9 時 国際社会主義事務局 BSI の会議
午前 10 時 委任状審査と委員会結成のための各国支部
会議
社会党報道各社代表者会議
列国社会主義議員委員会の会議
午後 3 時 スコスボー Skodsborg 公園のピクニック
川沿いに船で遊覧
- 8 月 30 日 (火曜日) 午前 9 時 国際社会主義事務局 BSI の会議
午前 10 時 諸委員会の会議
午後 3 時 列国社会主義議員委員会の会議
- 8 月 31 日 (水曜日) 午前 9 時 国際社会主義事務局 BSI の会議
午前 10 時 全体会議
午後 3 時 全体会議
- 以降毎日 午前 9 時 - 10 時 国際社会主義事務局 BSI の会議
午前 10 時 - 午後 1 時 全体会議
午後 3 時 - 午後 6 時または 7 時 全体会議
- 9 月 3 日 (土曜日) 閉会 会議終了後
午後 7 時 30 分会議終了後 コペンハーゲン市役所でレ
セプション⁽⁸⁸⁾

「インターナショナル大会式次第 Procédure des Congrès internationaux」

(88) *Ibid.*, pp. 7-9

はシュトゥットガルト大会で定められた方式に従って作成された。開会の挨拶は国際社会主義事務局 BSI の議長が行う、議長は開催国の党に最初の全体会議の議長の指名を求める、大会書記局は国際社会主義事務局 BSI が務めると決められていた。各国支部の書記は代議員の資格審査を行うとされた。委員会（分科会）については委員会には各国支部から最大4名の委員を送ることが出来、社会主義紙の代表のみが委員会に出席出来るとし、各委員会の議長か書記は委員会の名簿と全体会議に提出する決議案を国際社会主義事務局 BSI 書記局に提出すると決められていた。しかし他国の支部が代理で議決権を行使することは認められなかった⁽⁸⁹⁾。

この大会での各国支部の議決権数は最多の20票がドイツ、オーストリア・ボヘミア、イギリス、フランス、ロシアの5か国に与えられ、ついでイタリア15票、アメリカ14票、ベルギーとスウェーデンが12票、デンマーク、ポーランド、スイスが10票、ハンガリー・クロアチアとフィンランド、オランダが8票、ノルウェー、スペインが6票、トルコ（アルメニア4票、サロニカ（テッサロニキ）1票）5票、最小のセルビア、ブルガリア、ルーマニア、アルゼンチンの4票割り当てられた。シュトゥットガルト大会での決定を基準に配分されたが⁽⁹⁰⁾、シュトゥットガルト大会ではトルコもしくはトルコ内部の少数民族には票は割り当てられていなかった。また委任は認められなかったので、代表を送らなかった日本やルクセンブルクなどには議決権を行使できなかった。議決権数とは関係なく代議員数は無制限に認められ、最多のド

(89) *Ibid.*, pp. 9-10

(90) シュトゥットガルト大会では、上記の諸国のほか参加しなかったオーストラリア2票（統一派8票、非統一派4票）、南アフリカと日本には4票が、ルクセンブルクには2票が割り当てられていた。トルコとトルコの少数民族には1票も与えられていなかったほかに、ハンガリーには6票しか割り当てられずクロアチアの2票分は決議には記されていない。VII^e Congrès Socialiste International tenu à Stuttgart du 16 au 26 août 1907. *Compte rendu analytique publié par le Secrétariat du Bureau Socialiste International*. Bruxelles. Imprimerie-Lithographie Veuve Désiré BRISMÉE. 1908. p. 417 ちなみに日本から片山潜がこの大会に参加できなかったのは、日本政府がヴィザを発行しなかったからであるが、このことについては第5委員会についての記述で述べる。

イツからは189人、次いで開催国のデンマークが146人、隣国のスウェーデンが86人、イギリスが84人、オーストリアが65人、フランスは49人で、最も少ないアルゼンチンは1名のみであった。

この大会に参加した著名な人物としてはイギリスからは独立労働党のケア・ハーディや労働党のマクドナルド MACDONALD が、ドイツからは病気でベーベル BEBEL は欠席したがドイツ社会民主党 SPD 共同議長ハーゼ HAASE とカウツキー KAUTSKY、ドイツ労働組合のレギーン LEGIEN が、オーストリアからはヴィクトル・アドラーが、ロシアからはレーニン、トロツキーが、ポーランドからはローザ・ルクセンブルクが参加した。フランスからはエルヴェが出席しなかったことが目立つが、ジョレース、ヴァイアン、ゲードの常連の代議員のほかに初参加のアルベール・トマが出席した。

1. 8月26日の国際社会主義事務局 BSI 第1回会議

8月28日に予定されていた開会式の前日である8月26日から国際社会主義事務局 BSI 会議が開催された。会議に参加したのはデンマーク、ドイツ、オーストリア、イギリス、ベルギー、ボヘミア（当時チェコスロヴァキアを指し未だ独立を果たしていなかった）、ブルガリア、アメリカ合衆国、フィンランド、フランス、オランダ、ハンガリー（オーストリア帝国の一部）、ノルウェー、ポーランド（まだ独立していなかった）、ルーマニア、ロシア、セルビア、スウェーデン、トルコ（アルメニア人の代表）の19か国・民族であった。フランスからはヴァイアン、ジョレース、ゲードが出席した。⁽⁹¹⁾

第1回会議では事務局書記であるユイスマンスから大会の式次第についての提案が行われた。事務局執行委員会は議長3名を北歐3国から副議長3名を他の国から選ぶことを提案し、デンマークからクラウセン KRAUSEN が、スウェーデンからブランティング BRANTING が、ノルウェーからイエッペセン JEPPESEN が指名された。残りの副議長3名は当日事務局が指

(91) *Huitième Congrès Socialiste Internationale. Compte Rendu Analytique. op. cit.*, p. 399

1910年の社会主義インターナショナル第8回コペンハーゲン大会とフランス社会党第5回トゥルーズ大会（1908年）、第6回サンテティエヌ大会（1909年）、第7回ニーム大会（1910年）の歴史的考察（2・完）（横山謙一）

6 (235)

名することとした。書記は事務局に大会が選出する委員会に仕事を割り当て、列国社会主義議員委員会の日程を決めることを依頼した。ヴァイアンは列国社会主義議員委員会を独立の機関とすることをもとめた。事務局議長は5つの委員会が 1. 生活協同組合、2. 連帯とチェコ問題、3. 仲裁と軍縮、4. 労働者の保障、失業、社会政策、5. 死刑、フィンランド、ペルシア、アルメニア（諸決議）の5委員会の設置を大会に求めると述べた。列国社会主義議員委員会は労働者保障と植民地政策を扱うとした。ロシア社会革命党のルバノヴィッチの提案で、第5委員会は事務局が提出する決議しか行わないとした。⁽⁹²⁾

2. 8月27日の国際社会主義事務局 BSI 午前の会議第2回会議

議長は投票の方法と国際社会主義事務局 BSI 代表派遣の形式について議論を求めた。アメリカ社会党のヒルキット HILLQUIT は従来の規則に対する修正案を提出した。それによれば通常は国際社会主義事務局会議での採決は各代表1票とし挙手で採決を行う。3人以上の代表が求めれば各国支部ごとの投票を行う。各国支部ごとの投票を行う場合、大会で各国支部が有する票数を事務局会議でも保有する。もし支部が分裂していた場合、組織の規模に見合った票数を持つとする提案であった。しかしイギリスのマクドナルドから補足の提案が出された。支部が2つの党に分かれている場合のように支部の票の配分が国際社会主義事務局に代表されているものに見合わない場合、各国支部を構成する諸組織が2人の代表の1人が票決を行なわせたくない場合は、支部全体で調整を行うという補足であった。この補足提案に対し、この大会ではポーランドの委員を任されていたカウツキーはヒルキットの提案が原則にそって修正するとして、国際社会主義事務局では通常挙手で票決を行うが、3名の反対があれば支部別に投票を行い、各党は大会全体会議で各支部が有する票数を行使できるとする、ヒルキット案の文言をより明

(92) *Ibid.*, pp. 399-401

確しただけの修正であった。これに対しオランダのトゥールーストラはカウツキーの案では管理業務を担当する事務局を常設の大会に変えてしまうとして真っ向から反対し、大会に代表を出しているすべての党に事務局への代表を認めたら、対立が生まれ、仕事は進まなくなり、解体するので現状維持をのぞむとし、大会で2票以上もっている国民か党は5票につき1人の代表を事務局に出すことが出来るよう提案した。議長は重大な問題なので審議延長をもとめ、カウツキーとアドラーは賛成、ヒルキットは即座の採決を求めたが3票を除く満場一致で継続審議を決定した。またスウェーデン社会民主党から求められたスウェーデン社会主義青年の加盟も事務局で審議することに⁽⁹³⁾した。

3. 8月27日の国際社会主義事務局 BSI 午後の会議第3回会議

大会にはチェコ労働組合の12名の代表がチェコの支部のメンバーとして大会に出席したが、資格審査の結果7名の代表がプラハの労働組合委員会に所属していないことを理由に排除されたとして国際社会主義事務局 BSI に訴えた。資格審査で認められなかったのは、彼ら7名がウィーンの労働組合委員会に所属していたからで、この委員会に所属していても2名がポーランドの代表に選ばれていると反論した。これにチェコの代表ネメツ NEMEC は反論して彼らはウィーンの委任をうけたから資格を拒否されたもので、彼らのうち2名はチェコの党から党を攻撃する新聞を編集したとして除名されており、残りの者も党を攻撃しており資格を拒否することが党に認められていると主張した。⁽⁹⁴⁾

4. 8月27日の社会主義インターナショナル・コペンハーゲン大会開会式 (大会第1回全体会議)

8月27日の開会式(大会第1回全体会議)の会場となった巨大なコンサー

(93) *Ibid.*, pp. 4-401

(94) *Ibid.*, pp. 401-405

ト・パレスは、各国から派遣された896人の代表で埋め尽くされ、狭隘にさえ感じられたと言う。建物は芸術的に装飾され、入り口の列柱は赤色布で覆われ、デンマーク語で「第8回社会主義インターナショナル大会 Ottende Internationaler Socialist Kongres」と大きな横断幕（バナー）に書かれていた。ホールも色とりどりに装飾され、その様相は人々を圧倒していた。丸天井のホールの周りには白と金色で刺繍された生活協同組合などの組織の徽章がまとめて集められていた。会場には9列の長方形の長い事務用テーブルが横に並べられ、各国の代表が陣取った。1列目のテーブルにはスウェーデンの代表が、2列目と3列目のテーブルには大部隊のドイツ代表が座った。フランスの代表はオランダの代表と一緒に7列目のテーブルを占めた。最後列の9列目のテーブルはイギリスの代表に割り当てられた。ドイツに次ぐ大所帯の開催国デンマークの代表は1階に場所がとれず右側ギャラリー（回廊）が与えられ、125名の報道陣は左側ギャラリーが陣取った。極めて多数の聴衆は中央部大屋根裏階廊席に押しかけた。⁽⁹⁵⁾

舞台の奥のカーテンは巨大な幕に地球をあらわす青い球体の間に、赤い帯状の布に「万国の労働者団結せよ」と書かれていた。またホールは赤い幟にデンマーク語、英語、ドイツ語、フランス語の4か国語で国際社会民主主義の綱領を要約したスローガンが記されていた。「労働は富の源泉である」「連帯は我らの基礎である」「知識は力である」「宗教は私事である」「階級分割の廃止」「私的独占の廃絶」「人民の意志は至高の法である」「全員に普通選挙権を」「最大8時間労働日」「軍縮は平和である」「女性に男性と同じ権利を」「自由、平等、博愛」がそれであった。

大会は11時半に合唱団のカンタータで始められた。冒頭の歓迎の挨拶はデンマーク社会民主党の国民議会代議員グスタフ・バング Gustav BANG 博士が行った。⁽⁹⁶⁾彼は演説の中で1871年に創立されたデンマーク社会民主党の思い出として、1883年に社会主義者鎮圧法の下におかれたドイツ社会民主党

(95) *Ibid.*, pp. 45-46

(96) バング博士の演説全文は *Ibid.*, pp. 47-50 を見よ。

SPD の党大会に場所を提供したことを語った。その後カンタータが再開する。満場の拍手の中でオーケストラと合唱が終わると、国際社会主義事務局 BSI のメンバーが壇上の椅子に座り、議長のヴァンデルヴェルドが大会の開会を宣言する。そして国民議会代議士で 1924 年にデンマーク最初の社会民主党の首相となるトルヴァルト・スタウニング Thorvald STAUNING がデンマーク社会民主党を代表して開会の挨拶を行う。「我らの 10 万票と国民議会の 28 議席は、コペンハーゲン市行政の半数の議席は、社会党 33 紙と 12 万の予約購読者は、組織された 12 万人の労働組合員とデンマーク労働者の経済的・知性的な状況の復興は我らが外国の同志に示すことが出来るものであり、我らの努力の明白な結果であります。これらの結果は国際社会主義の理念を基礎として我ら努力によって獲得したものであります。(略) 団結と連帯の精神が我らの決議に君臨することを願います。社会の不正義に対する闘いに我らの力を合わせましょう。今日社会主義の勝利のために私たちは結集しました。これを展望して任務に励みましょう。資本主義これは隷属と戦争であり、社会主義これは自由と平和であります」と演説した。

次に国際社会主義事務局議長のヴァンデルヴェルドが開会の演説を行う。この演説でまずデンマーク社会民主党が今年の選挙で獲得した 98,000 票は 30 歳以上の男子の票であり、加えて 12 万の労働組合員と機関紙購読者を擁していると躍進を賞賛した。次いでシュトゥットガルト大会以降の各国支部の前進を報告し世界各国の 33 か国がインターナショナルに加盟するか連携を持っており、イギリスでは労働党が 40 議席を議会に持ち、オーストリアでは普通選挙制度を獲得した上に、インターナショナルで最強の議員団を持つに至ったなど成果を強調した。⁽⁹⁷⁾

ヴァンデルヴェルドが演説を終えると国際社会主義事務局書記のカミーユ・ユスマンスが事務的連絡を行い、事務局に寄せられた書簡と電報の朗読は水曜日の全体会議で行うと通知した。国際社会主義事務局は大会議長に

(97) *Ibid.*, pp. 51-53

(98) *Ibid.*, pp. 53-58

1910年の社会主義インターナショナル第8回コペンハーゲン大会とフランス社会党第5回トゥルーズ大会（1908年）、第6回サンテティエヌ大会（1909年）、第7回ニーム大会（1910年）の歴史的考察（2・完）（横山謙一）

指名されたデンマークのクラウセン、スウェーデンのブランディング、ノルウェーのイエッペセンを紹介した。大会の議事日程は既に国際社会主義事務局会議で決定された 1. 政党と生活協同組合の関係、2. 失業問題、3. 仲裁と軍縮、4. 労働者立法の国際的諸結果、5. 死刑に反対する国際的示威行動の組織化、6. インターナショナル大会決議を迅速に執行するためにとられるべき手続きに加えて、国際的連帯の組織化とオーストリアにおける労働組合の統一と社会党組織の統一とフィンランド、アルゼンチン、トルコ、ペルシアの状況についての決議の2つが付け加えられた。委員会（分科会）は 1. 生活協同組合、2. 国際連帯と労働組合の統一、3. 反軍国主義、仲裁と大会諸決議執行を保障するために採る手続き、4. 労働者立法と失業、5. 社会主義統一を支持するフランスの決議、死刑についての決議、そしてフィンランド、アルゼンチン、ペルシア等についての決議を扱う決議委員会の5つの委員会（分科会）に整理・編成された。イギリスの移出民についての決議はシュトゥットガルト大会で議論されたので議事日程からはずされた。そして1907年以降国際社会主義事務局会議で議決された6つの決議、すなわち a. 1908年10月11日以降の政治情勢についての決議、b. アブドゥル-ハミド失脚についての決議、c. ルーマニアでの迫害についての決議、d. モロッコ出兵についての決議、e. スウェーデン社会主義者についての決議、f. 死刑についての決議について確認され、最後に各国の議決権数について通知が行われ、午後1時に会議を閉会した。⁽⁹⁹⁾

日曜日の午後はコペンハーゲンに近い美しいソナーマーケン Søndermarken 公園の徒歩旅行と集会に割り当てられた。公園は市当局の配慮で赤い記章を付けた大会参加者に貸し切られ、午後4時に西大通り Vestergade で列を作って出発した。15の音楽隊が行列に混じり、無数の赤旗が頭上で振られた。通りの両側の群衆から騎馬警官が道をあけてくれ、窓から乗り出す群衆は通過する行列に声援を送った。殆どの参加者は花で飾るか花束を持ち

(99) *Ibid.*, pp. 58-63

行進した。社会党の郵便職員組合は日曜の出で立ちで人目を引いた。女性達はフリーズ帽をかぶり、服飾と縫製の労働組合の横断幕のひもを引いていた。金属労働組合の幟には彼らの国際組織が80万人を数えると誇示していた。大会の記章をつけた数多くの兵士も外国の代表に拍手を送り、列にも加わった。

コペンハーゲンの市長イェンセン JENSEN とクヌーセン KNUDSEN は行列を先導して歩いた。列の先頭には赤字で「労働者インターナショナル万歳」「国際プロレタリアート万歳」「資本主義に反対する労働者の国際的友愛万歳」とそれぞれに書かれた3つの透けた白色の横断幕が掲げられていた。人民会館と公園付近の道路は凱旋門で飾られた。行列が到着する前から多数の群衆が公園に集まり、民衆の祭りの様相を呈していた。家族は全員参加で両親に娘や息子そして乳児まで乳母車で参加した。行列が到着する頃には、人々は入場しきれなくなり、10万から15万の参賀者であふれかえった。⁽¹⁰⁰⁾

会場には4つの舞台が作られ、第1の舞台はオーケストラと合唱団に割り当てられた。弁士達のための4つの舞台は第1の舞台がジョレースとドイツのモルケンブール MORKENBUHR、ケア・ハーディ、ヴィクトル・アドラー、ベルギーのアンセーレ ANSEELE たちが、第2の舞台ではレギーン、マクドナルド、ヴァイアン、ブランティングたちが、第3の舞台ではドイツのレデブール LEDEBOUR、ヴァンデルヴェルド、オランダのトゥルースラ TROESTRA たちが、第4の舞台はオランダのファン・コルヤゲードの代理にフランスの代議士ド・ラ・ポルト、アルメニアの党を代表してヴァランディアン VARANDIAN、ノルウェーのニルセン NILSSEN などの弁士達が次々と壇上に上り演説をした。演説大会は8時半に終了を告げられたが、閉会後も群衆は照明で彩られた公園に遅くまで残った。⁽¹⁰¹⁾

(100) *Ibid.*, pp. 63-65

(101) *Ibid.*, pp. 65-76

第2節 5つの委員会（分科会）の会議と国際社会主義事務局 第4回・第5回・第6回会議

1. 第1委員会（生活協同組合）8月29日月曜日第1回会議

8月29日月曜日には5つの委員会（分科会）の第1回委員会会議が開始される。第1委員会は「生活協同組合」についての委員会である。この委員会にはジョレースとゲード、エリエスがフランスの委員として委員会に参加した。ロシアからはレーニンが委員としておくれた。委員会にはベルギーの労働党とオランダの社会民主労働党、フランス社会党の3つの決議案が最初に議長から提出され審議が始まる。

⁽¹⁰²⁾
3か国の決議案の特徴を指摘するならば、ベルギー案では階級闘争での生活協同組合の役割を認め、社会党と緊密な関係を持つこと、そして購買商品供給企業の労働者の労働条件を改善することと生活協同組合で模範的な労働条件をしめすことも役割として与えられていた。また剰余金をプロパガンダと労働者教育と階級闘争のために利用することもうたっていた。オランダ案は率先して党や労働組合が労働者生活協同組合に加入することや、ストライキ中の労働者やロックアウトされた労働者を支援することも明記されていた。フランス案はすでに上記で述べたように生活協同組合の自律を認めるとともに、「社会変革にとって必要な諸要素」であると認めた。

これら3つの決議案をめぐる議論が闘わされる。ベルギー労働党の委員ベルトランは約30年の歴史からみて労働党が労働組合と生活協同組合と党の3者から構成されており、党はこれらを指導すると主張する。これに対しドイツの委員フォン・エルム VON ELM は真っ向から反対し、3者は分離し自律していなければならないと説く。生活協同組合は政治的職業的宗教的区別をしないであらゆる消費者を結集することが有益であると見る。しかし生活協同組合は各国で固有の発展を遂げているのであり、ベルギーの組織の固

(102) 3か国の決議案全文は *Ibid.*, pp. 89-93 を参照。

有性には触れないのでベルギーの法則を我々に押しつけないでもらいたいという。オーストリアの委員カルペレス KARPELES はベルギーの制度を自国に移入は出来ないが、反対するどころか利点を認める必要がある、社会党は生活協同組合内での影響力を強めるように努力しなければならないと言った。次に発言したフランスの代表エリエスは、最近のフランス社会党大会で党に対する生活協同組合の絶対的自律が認められた。しかし生活協同組合はそれ自体社会主義である。フランスではベルギーの例を模倣しようとした試みが特にノール県で行われたが、社会党に加盟する生活協同組合は少ない。中立のフランスの生活協同組合は社会党に支払わずに、配当金を制限し剰余金は組織を強化する抵抗金庫として、闘争の場合の抵抗援助金としてしていると発言した。他のベルギーの代表たちも生活協同組合の中立を主張するドイツの見解に反対し、自律は認めるが党への生活協同組合の加盟は肯定し、特にアンセーレはストライキ時やロックアウトされた場合の援助の必要性を主張する。しかしオランダの代表はドイツのフォン・エルムやフランスのエリエスは生活協同組合自体が社会主義であるとする意見に反対するが、ベルギー案も生活協同組合は社会党に積極的に加盟するとする部分を修正する必要があると主張する。⁽¹⁰³⁾

8 月30日火曜日第 1 委員会第 2 回会議

ドイツのフォン・エルムはこの日も継続してベルギー案に反対して、生活協同組合の中立性を擁護する。彼は自分たちが主張するのは「中立性」ではなく党への「非加入」であるが、政治闘争への参加は否定しないと強調する。これに対しヴァンデルヴェルドは党と生活協同組合との緊密な関係を擁護したが、ドイツとオランダの意見とは大差ない、ドイツでは既に生活協同組合は社会主義的であり、オランダが党への党費納入を否定するのであれば、党と生活協同組合との緊密化を認めるのであれば、これを受け入れると

(103) *Ibid.*, pp. 94-103

述べた。フランスのジョレース派のアルベール・トマはアンセーレに反論してフランス生活協同組合は労働者と連帯しているので彼が言う中立に当てはまらないと言い、しかし社会党への加盟は否定していることを強調する。フランスの少数派を代表してゲードはトマが利益を生活協同組合員で分割するのは純粋な資本主義であるとして否定するが、党費納入は階級闘争の武器として肯定する。しかし生活協同組合自体は階級闘争の道具ではなく、労働者の即座の生活条件を改善する手段であると主張する。イギリスの代表ワイトリー WHITELEY はイギリスでは生活協同組合は立法や政治的改良を通じて政治に参加し、労働組合組織に貢献しているが、社会主義者は生活協同組合のために殆ど何もしていないとして今後の改善を望み、ベルギー案を支持した。オーストリアのカルペレスはベルギーを模範であるとして肯定し、党は党員に生活協同組合への加入を求めるべきであり、それによってこそ生活協同組合の発展があると言う。⁽¹⁰⁴⁾ ドイツのヴルム WURM は生活協同組合の財源から利益を得ようとするのは過ちであると指摘する。アンセーレは各国の意見を聞くために小委員会を設置することを提案する。ノルウェーの代表は自国では労働組合には政党加盟を生活協同組合には中立性を実践しているが、そのために生活協同組合は利益のみを求めブルジョア化しているのでベルギー案を支持するが、ブルジョア的精神を党に導き入れる危険性もあると指摘した。スウェーデンの代表は自国では労働組合と生活協同組合への加入は個人に委ねられており、ドイツ案を支持すると表明した。ロシアの代表は政党と労組と生活協同組合は各自の独立した発展を遂げるべきであり、それ故にフランス社会党多数派案に賛成すると結論した。オランダはドイツのフォン・エルムにオランダはベルギーの制度を採っているので発展しないとする見解に対し、ブルジョア化した大きな生活協同組合よりもまだと反論

(104) ヴルム、エマヌエル、WURM, Emmanuel ; 帝国議会議員。「ノイエ・ツァイト Neue Zeit」紙編集員。第1次世界大戦中穏健な反対派で、1917年から独立社会民主党に属し、1919年に食糧供給大臣になった。HAUPT, Georges ; *Le congrès manqué. op. cit.*, p. 288

⁽¹⁰⁵⁾
した。

その後小委員会が指名され委員長にアンセーレがベルギーからヴァンデルヴェルト、フランスからジョレースのほかオランダ、ロシア、オーストリア、スカンディナヴィア 3 国、イタリアから 1 名ずつの委員が選ばれた。⁽¹⁰⁶⁾

9 月 1 日木曜日第 1 委員会第 3 回会議

小委員会で激論が交わされた末に、小委員会案が委員会に提出され討論が始まった。ロシアのレーニンから資本主義の取奪の後でなければ生活協同組合の社会主義的で民主主義的行動は認められないとする案が出されたが圧倒的多数で否決され、ドイツのヴルムの政党加入を「義務」とするから「即時に勧誘する」か「約束する」に変える修正案は採択された。さらにヴルムは中立性が絶対的ではなく労働運動の各部門で調整するとする修正案を出したが、同じドイツのフォン・エルムは反対し、ヴルムは修正案を取り下げた。しかしオランダのヴィバウト WIBAUT が再提出して圧倒的多数で否決されたにもかかわらず、最終的には小委員会決議案がヴルム修正案とともにロシアのレーニンとチェコの反対を除く全体一致で採択された。⁽¹⁰⁷⁾

要約すればそれでも多少長文になるが、その決議案⁽¹⁰⁸⁾の要旨は以下の通りである。生活協同組合は当面の物質的利益を加入者に与えるだけでなく仲介流通機関を廃止し、生産サービスを行い、労働者の生活条件を改善し、労働者を教育する。生活協同組合だけでは社会主義の目標を実現するのは不十分なので、大会は労働者が生活協同組合を階級闘争の武器として用いることに最大の利点があると宣言し、すべての社会党員と労働組合員に生活協同組合運動に積極的に参加させることに取り組む。生活協同組合の社会党員は剰余金を組合員に配分するだけでなく労働者の教育や共同生産のためにも割り

(105) *Huitième Congrès Socialiste Internationale. Compte Rendu Analytique. op. cit.*, pp. 103-112

(106) *Ibid.*, p. 116

(107) *Ibid.*, pp. 116-117

(108) 決議全文は *Ibid.*, pp. 117-119 を見よ。

当てるために、そして生活協同組合員の賃金と労働条件は労働組合との協定で取り決め、さらに労働条件が模範的になるように、商品の購買が生産する者に配慮して行われるように闘う。どれだけの資源を政治運動と労働組合運動に割り当てるかは各国の生活協同組合が決定する。この決議に基づく各国の生活協同組合運動は単一の連盟を形成し、社会党と労働組合と生活協同組合は各自の自律を尊重しながら緊密な関係を結ぶことを大会は宣言する。

結局のところベルギー案とフランス社会党多数派案とドイツ案を折衷した決議に収まったのである。いつものことながら、ドイツ案を含めた折衷案に落ち着く。いまだドイツ社会民主党 SPD の発言力は大きいのであった。

2. 第2委員会(労働組合問題)

8月29日月曜日第1回会議

この委員会はずまず「国際連帯の組織化」について審議し、次いでオーストリアとチェコの労働組合統一の問題を討議する仕事を与えられていた。議長はスウェーデンのブランティングとオランダのトゥルーストラが指名されていた。最初にオーストリア帝国労働組合委員会の決議案が提出された。決議案は政党と労働組合に関するシュトゥットガルト大会の決議⁽¹⁰⁹⁾に従って特に労働組合の統一を維持し、国内諸民族の党の分離主義的動きを問題にするものであった。まずオーストリアの委員フューバー HUEBER が分離主義的チェコの党が労働組合を民族別に8つの組織に分離しようとし、統一した運動の障害になっていると訴えた。これに対しボヘミアの党を代表してネメツ

(109) 決議全文は *VIIe Congrès Socialiste International tenu à Stuttgart. op. cit.*, pp. 424-425 を見よ。このシュトゥットガルト大会の決議は「政党と労働組合の関係 Rapport entre les Partis et les syndicats」についての決議と呼ばれる。この決議では「社会党の活動がとりわけプロレタリアートの政治闘争の領域で行われるのに対し、労働組合の活動は主に労働者階級の経済闘争の領域で行われる。(略)プロレタリアの闘争は労働組合と政党の関係が労働組合運動の関係が必要な統一を危うくせずにより緊密になれるほどうまく行き実りが多い。(略)政党と労働組合は精神的に両者の努力を互いに助け合い、支え合うべきであり、両者が行う闘争においてたがいにひたすらプロレタリアートの解放を助ける手段として役立つべきである」と両者の関係を定義している。

は党に認められている民族別の党支部が労働組合には認められていなかった
のでチェコの労働組合委員会を結成したが、オーストリアの委員会とも緊密
な関係を有していた。しかしチェコの社会民主党が労働組合に影響力を維持
しようとする拒否されたので、チェコ労働組合委員会は中央集権的な行動
では発展をのぞめなかったのでオーストリア労働組合委員会との関係を断絶
した。党と労働組合が統一した方が良い結果をもたらす。チェコのドイツ人
労組員とは協力して運動を推進してきたが、ドイツ人はドイツの党と友好的
関係にあるウィーンの党に従おうとして問題が生じている。諸民族間の対立
が生じており、しかし諸民族の利益を認めなければ党と労働組合の統一を実
現できないので、オーストリア労働組合委員会の決議を否決し、チェコの党
を非難することのないように求めると主張した。⁽¹¹⁰⁾

8 月30日火曜日第 2 回会議

この日最初にドイツの委員ベアー BEER はネメッツの党は少数派しか代
表していないし、大会は民族諸地域ではなく「国家」を基礎に労働組合は統
一する方向でシュトゥットガルト大会決議を修正するべきだと力説した。次
にベルギーの委員ベルフマンズ BERGMANS はネメッツがベルギーの労働
組合がフレミッシュ（フラマン・オランダ語系）とワロン（フランス語系）
に分裂していると評価しているのは間違っており、一部の労働組合が労働党
と労働組合委員会の関係が緊密すぎると苦情を述べただけであって、フレミ
ッシュとワロンの労働組合の対立は解消しつつあると述べた。そしてシュト
ットガルト大会決議は党と労働組合の行動における統一とともに労働組合
の統一を重視しており、オーストリアの労働組合委員会決議案を支持すると
主張した。ドイツの労働運動指導者レギーンはオーストリア労働組合委員
会決議案を支持して発言する。1896年のロンドン大会で労働組合運動の統一は
既に可決されており、地方組織は禁止されていて、これを認めたならば労働

(110) *Huitième Congrès Socialiste Internationale. Compte Rendu Analytique. op. cit.*, pp. 120-126

18 (223)

組合運動は細分化されると主張した。そしてドイツでもポーランド人、デンマーク人などの労働組合があると指摘した。続いてポーランドの委員2名が立て続けに発言し、同じ少数民族であるので同情するが、資本主義という敵を前に分裂するべきではない、行きすぎてはならないとたしなめる発言をする。しかしチェコの委員は妥協しないが、孤立無援に陥るばかりであった。そしてポーランドの委員とチェコの委員の口論さえ始まる。チェコの委員ソウクブ SOUKUP はチェコの労働組合はシュトゥットガルト大会決議に従っており、自律している。オーストリアの党に非難される謂われはないと反論⁽¹¹¹⁾する。

オーストリア社会民主党を代表する理論家であるヴィクトル・アドラーは和解の方向を探る。党はチェコの労働組合の求めるものを十分に配慮していると主張する。ウィーンの労働組合委員会の中央集権主義を望まないと言うが、プラハの委員会も同じであり大きな違いはないしウィーンの委員会は統一して強かに闘いを推進しているのに対し、プラハの委員会は分裂させて行動の手段を弱めている。シュトゥットガルト大会決議は労働組合の統一を決議している。我々はチェコの仲間をわずかでも傷つけたくはないしともに闘いたい。あなた方が民族の自律を要求するならば事態は悪化するだけであると主張した。ロシアの社会民主労働党のプレハーノフ PLECHANOFF も民族的対立で分裂することに反対し、労働運動の統一をのぞんだ。

これに反論してボヘミア（チェコ）の委員トゥサル TUSAR は、我々は国際的義務を理解しているが、ウィーンの帝国労働組合委員会が突如我々の要求を斥けたと言う。自分たちの党がオーストリアの党よりも小さくとも帝国議会に24議席を有しており、自分たちの資金を他党に管理されたくないのだというのだ。そしてやがて我々の実力を知るときがある、我々こそがインターナショナルに忠実であると強調する。

次にオーストリアの委員パウアー BAUER はウィーンの工場でも少して

(111) *Ibid.*, pp. 126-130

もチェコ人がいればプラハの委員会に加盟することをのぞんでいるが、こうした分裂を労働組合インターナショナル書記局 *Secrétariat syndical international* は認めていないのに、チェコ人は国際主義をオーストリア人から民族的に分離することであると考えている、これでは国際的友愛はのぞめない」と主張する。国際的政党は多数の民族を擁するオーストリア社会民主党だけであり、政党の分裂を防ぐ重しのために労働組合の統一があるとさえ言う。またハンガリーの委員ガラミ GARAMI はオーストリアの労働組合は我々よりも進んでおりそこにハンガリーの未来がある、自分たちがチェコのような分離主義を主張すればより悪い方向に進むとさえ言い切ってオーストリアの決議案を擁護した。多言語国家であるスイスの委員フリッツ・アドラー Fritz ADLER でさえチェコの主張を民族主義であると主張し、チェコの代表は猛烈に抗議する。⁽¹¹²⁾

これまでの議論にはオーストリア内部における民族問題の深刻さをかいま見ることが出来る。フランスの委員ド・ラ・ポルトは閉会を提案し満場一致で可決されるが、議長はこのままではチェコはインターナショナル諸原理を裏切っているとしての批判にさらされることになるので、翌日にチェコの委員の発言を認めるとしてこの日は閉会した。

9月1日水曜日第3回会議

この日はネメッツ委員が発言に立ってチェコの立場を擁護する。オーストリアとそれ以外の多言語他民族国では状況が異なっており、対等の立場で競い合うのではなく強力な組織が国際主義の装いの下に弱小な組織を導いているのであり、我々の国際主義はチェコ民族を否定するものではない。帝国委員会が多民族を加盟させていてもあくまでもドイツの性格を持っていて、この組織の支配を甘んじて受けるわけにはいかない。大会が我らをインターナショナリズムの原則を裏切っているとしてインターナショナルから追放しよ

(112) *Ibid.*, pp. 138-151

1910年の社会主義インターナショナル第8回コペンハーゲン大会とフランス社会党第5回トゥルーズ大会（1908年）、第6回サンテティエヌ大会（1909年）、第7回ニーム大会（1910年）の歴史的考察（2・完）（横山謙一）

20 (221) うと脅すのならば、自分を守るしかないと激しく非難する。そしてネメッツは2つの決議案を提出する。

一つはシュトゥットガルト大会決議を前提として労働組合運動の自律を前提として政党と労働組合の緊密な関係を結ぶことを認めるが、各民族の労働者階級の統一を危うくし破壊することは国際社会主義運動の諸原則に反しており、政党と労働組合の深刻な紛争が生じた場合には国際社会主義事務局会議 BSI は和解を図る必要な措置を執るとする決議で、これが認められなかった場合には第2のより具体的に実名を挙げて、ウィーンの委員会はシュトゥットガルト大会決議の一方的な解釈で重大な内容を無視しているので、ウィーンの労働組合委員会の提案をオーストリアの諸政党の内部問題として調査を国際社会主義事務局会議 BSI にもとめ、次回大会で紛争が解決されなかった場合には事務局は調査の報告を行い、この問題についての決議を提出する、とするものであった。採決の結果チェコの決議案は反対185票対賛成9票（チェコの票のほかフィンランド2票）で斥けられた。オーストリア帝国委員会案に対してはベルギーが国際社会主義事務局会議 BSI と労働組合インターナショナル書記局は和解を仲介するとする修正案を出し、ロシアのプレハーノフなどからも第2の修正案が出され、フランス社会党 SFIO 多数派からはシュトゥットガルト大会決議以前の大会決議によるべきであるとの提案がなされたが、提案者のフランス社会党 SFIO 多数派とロシアの委員を除く全体一致で否決された。結局2つの修正がなされたオーストリア委員会案が反対5票とフランス社会党 SFIO 多数派とフィンランドの棄権をのぞくすべての票の賛成で採択された。全体会議での報告者にはロシアのプレハーノフとチェコのネメッツが選ばれた。⁽¹¹³⁾

9月2日木曜日第4回会議

この日は後回しにされた「国際連帯」についての決議案がスウェーデン社

(113) *Ibid.*, pp. 151-159

会民主党から提案された。その内容は資本の側がトラストやカルテルで力を強めている現在、労働組合インターナショナルが労働組合運動の国際的強力を妨げる規約の条項を修正し、社会主義と労働者の側の有効な報道の改善と拡大によって反撃を準備するというものであった。これに対してはベルギーから年間党費の10分の1を緊急の救済のために徴収することが修正案として出された。スウェーデンのブランディングがこれは労働組合運動も問題であるから大会は労働組合インターナショナルに必要な措置を採ることを求めるという文が付加すると提案された。イギリスやアメリカ、オーストリアからは賛同する発言が行われた。スウェーデン決議案はブランディングが付加した文を含め満場一致で可決され、政党ではなく労働組合の問題であるとして政党の寄与を強調したベルギー案は否決された。そして全体会議への報告者としてスイスのフグラール HUGGLER が指名された。⁽¹¹⁴⁾

3. 第3委員会（仲裁と軍縮）

8月29日月曜日第1回会議

議長にはオランダのファン・コルが選ばれ、最初に仲裁の問題が議論されドイツ社会民主党 SPD が報告を行った。ドイツではイギリスの庶民院でアスキスが海軍軍縮の提案を行い、ドイツ帝国議会でこのを受けて審議が行われたが、政府は曖昧な回答しかしなかったため、ドイツ社会民主党 SPD はハーグ平和会議の決議を受けて海軍軍縮を実施するように求める決議を提出し、1909年に審議が行われ、フォン・ビューロー宰相が国内問題を外国と交渉しないと回答したことが報告された。イギリスの独立労働党と社会民主同盟からはハーグ決議を機会に反戦の取組を提案する決議が提案され、フランス社会党 SFIO は1910年のパリ大会で議決された社会党多数派案の決議が、さらにイタリア社会党の決議案が提出された。いずれもハーグ平和会議の決議を支持して行動をとることがうたわれていた。ドイツの委員レデブ

(114) *Ibid.*, pp. 159-168

ールは1910年の帝国議会での審議の際に出された提案を自分たちの決議案であると主張したが、議長は議会での活動であるとして決議案として認めなかった。フランスのヴァイアンからは4か国からの決議案をまとめるための小委員会を作ることが提案され、ケア・ハーディはヴァイアンの提案を支持したが未だ議論が不十分であるとして議論を続けることをもとめた。ヴァイアンはシュトゥットガルト大会では戦争を阻止する原理を決定したが、この大会では手段を決めなければならないと強調した。⁽¹¹⁵⁾

最終的に9名の小委員会が作られレデブール(ドイツ)、デュブリユ(フランス)、レンナー RENNER(オーストリア)、ケア・ハーディ(イギリス)、クラウセン KLAUSEN(デンマーク)、ヒルキット(アメリカ)、ジョニオー JAUNIAUX(ベルギー)、モルガリ MORGARI(イタリア)の9名が指名されたが、ロシアからもヴォルショフスキー VOLSCHOVSKYが加えられることが提案され10名で小委員会を構成した。⁽¹¹⁶⁾

8月30日火曜日小委員会会議

モルガリからは軍備を半減させることがプロパガンダとして有効であると主張し、オーストリアのレンナーはこれに反対して決議文にどのような項目を含めるべきかが提案された。導入部には労働者階級は戦争に反対であることと継続される軍備拡大は諸政府とハーグ平和会議の平和的宣言に反すること、軍備費は増税をもたらす社会改良を妨げ国家を破綻させることを明記し、第2に軍国主義の本質と戦争の危機を訴えること、第3に各国の議員団は政府に紛争時に仲裁に訴えること、第4に陸海空の軍縮の積極的プロパガンダをおこなうこと、第5に各国間で結ばれた秘密条約の公開をもとめること、第6に諸国家の永続性の保障を求めること、第7に開戦の危機がせまった時にとるべき行動の様式を示すことがレンナーから提案された。⁽¹¹⁷⁾

(115) *Ibid.*, pp. 171-187

(116) *Ibid.*, p. 188

(117) *Ibid.*, pp. 188-190

モルガリの提案と戦争を阻止する手段としてゼネラル・ストライキを提唱するハーディの議案と、陸海軍でのプロパガンダを求めるなどの内容を含むヴォルショフスキー修正案が否決され、レンナーに決議案の起草を求めた。この内容を翌日の委員会の会議に提案することを小委員会は決定した。⁽¹¹⁸⁾

8 月 31 日 水曜日 第 2 回会議

前日のレンナーが起草した小委員会決議案を議長のファン・コルは提示して審議を求めた。小委員会の決議案は以下のような文面であった。

「近年平和会議や諸政府の平和宣言にもかかわらず、軍備が膨大に増強されていることを大会は確認する。とりわけ海軍軍備競争は、その最終局面はドレッドノート艦の建造であるが、不毛な目的のために常軌を逸した国家歳入の浪費をもたらすばかりでなく社会的諸改良の実現と労働保護立法の財源不足と資金欠如の原因となっており、またその耐え難い間接税の負担によって諸国民を物質的に疲弊させ諸政府を財政破綻によって困弊させる瀬戸際に来ている。同時に必然的な永続的脅威のように昨今また世界の平和を脅かしているのはまさしく軍備なのである。

同時に文明にとって諸国民の繁栄にとってそして民衆の生存にとって危機であるこの進展に直面して、大会は以前の大会の諸決議をとりわけシュトゥットガルト大会の決議を確認し、すべての国の労働者は彼らの間には戦争を引き起こすようなもめ事や不和が無かったが、戦争は現在資本主義によってのみ、とりわけ世界市場の資本主義諸国家の国際的経済競争によってのみ、そしてプロレタリアートの経済的政治的隷従のための国内でのブルジョア支配の最も強力な武器である軍国主義によってのみ引き起こされることを思い起すよう呼びかける。

戦争は資本主義社会の消滅によってしか完全には無くならない。戦争の最も重い犠牲に耐える最も苦しむ労働者階級は戦争の消滅に最も利害関係を持

(118) *Ibid.*, p. 190

つ。すべての国の組織された社会主義プロレタリアートはゆえに唯一で確かな世界平和の保証人である。それゆえ大会はあらたにプロレタリアートの中でとりわけ青年の中で党に責任をもたせ青年を諸国民友愛の精神で教育する。大会は議会での社会主義の議員にすでに何度も繰り返したように全力で軍備と闘いその財源を拒否する義務を維持しながらその議員に以下のことを期待する。

- a) 彼らが諸国家間のあらゆる紛争を国際仲裁裁判所で強制的に解決することを休み無く要求する。
- b) 彼らが全面軍縮をはかる提案を第一にそして何よりも海軍軍備を制限する協定を締結することを、そして海洋の鹵獲権廃止をつねに繰り返す
- c) 秘密外交の廃止と現在と将来の政府間条約を公開することを強く求める。
- d) 彼らがすべての国民の独立と好戦的攻撃と抑圧からかれらを守ることを強く求める。

国際社会主義事務局会議は軍国主義と闘う社会主義議員団を特に資料の送付によって援助しこれら議員団の共同行動に導くように手助けする。

戦争にいたる紛糾の場合には大会はシュトゥットガルト大会の反軍国主義決議を確認する。それは次のように言う。

『もし戦争が差し迫るならば関係諸国の労働者階級の義務は、行動と協力関係の利点を持つ国際事務局の協力を得た彼らの議会代表の義務は、最も適切であると彼らが思うあらゆる手段で、階級闘争の深刻さと全般的政治情勢に従ってかわるであろう手段で戦争を阻止することである。』

しかし戦争が起きた場合はすぐさま中断させるために介入し、戦争が生み出した経済的・政治的危機を彼らのすべての力で人民階級の最深部まで扇動し資本家支配の没落を促進するために利用することである。』

これらの措置の執行を保証するために大会は国際社会主義事務局が国際紛

争の場合に関係諸国の労働者の党が共通行動をとるための合意を作り出すように働きかける⁽¹¹⁹⁾」。

小委員会決議案のほかに、イタリアのモルガリの軍備を50%削減する案と、ロシアのヴォルシヨフスキーのロシアなどの国で認められていない軍隊内部で兵士に市民的権利を求める決議案⁽¹²⁰⁾が出された。

レデブールは小委員会を代表して小委員会での審議の経過報告を行い、小委員会案は3分の2の賛成多数によって可決されたが、ケア・ハーディ案とモルガリ案、ヴォルシヨフスキー案は否決されたと報告した。小委員会案は原則として社会主義者は軍事予算に反対するべきである、仲裁裁判所は常設であるべきであり、かつて当事国の同意に基づいたが義務とするべきであると宣言した、と彼は言う。これらの提案を繰り返せば全面軍縮か少なくとも海軍軍備を制限し、鹵獲権を廃止する協定に行き着くとの見解を述べた。彼によればドイツでは戦争が起きれば、イギリスの軍艦が我が国の商船を鹵獲するので軍艦を保有すると言われているので海洋鹵獲権の廃止が必要であるという自国の利益を優先した議論であった。また秘密条約に対する不安が国民の間に生じないようにすべての政府間交渉を公表することも求めると言った。また諸国民の独立を要求し戦争による攻撃 *attaques belliqueuses* と抑圧から守ることもセルビアの要求を入れて文言に入れたのはドイツが民族抑圧の最先頭にいるからだとも言った。そして議会での行動は価値がないという意見もあるが議会主義は特に実力行使 *agitation* の手段であり、無関心なプロレタリア大衆を獲得する手段であるという。ケア・ハーディのゼネラル・ストライキの提案を決議案に盛り込まなかったのは迫害を招く恐れがあると暗にドイツの例を示唆している。またこの手段はすべての国では実施可能ではないという理由も挙げ、各国が選択する余地を与えられるべきだとも述べ

(119) *Ibid.*, pp. 190–193 「ケア・ハーディ - ヴァイアン決議案」が付加されることが予定されていたこの決議案がこの大会で最も重要な決議となったと評価して、以上の通り小委員会決議の全文を本文中に翻訳した。

(120) *Ibid.*, pp. 193–195

た。ケア・ハーディやフランス社会党多数派の戦術はドイツ社会党左派のレデブルにも受け入れがたかったことが彼の発言からも明白であった。ヴォルショフスキー案はロシアにのみ関係する提案であるから自国で要求し解決すべき問題であるとして⁽¹²¹⁾斥けた。

次にモルガリが発言し要求を分散させることは有効ではなく一点に集中させるべきであり、一国ではなくすべての国に求めるのであるから50%軍縮案は保守派にも受け入れることが可能であるとの持論をここでも繰り返し述べた。次にヴァイアンは「決議について言えば私は受け入れるし、賛成投票を投じる。しかし手段については十分ではない。人民の尽力を組織することを考える必要がある。シュトゥットガルト大会ではもっと良いものができた。議会主義の行動様式は示されたが、人民の行動は示されなかった。議会は大衆をたよりにしなければ行動できない。我らに必要なことは戦争をのぞまない人々によって戦争を阻止することだ。戦争を阻止するのだから手段に極端すぎるものはない」として「ハーディとともに決議文の末尾に修正案を付け加えることを提案する⁽¹²²⁾」として2人の署名を添えて以下の文案を示した。

「戦争を予防し阻止するためのすべての手段の中で、大会は特に有効であるのはとりわけ戦争に諸手段を提供する産業における労働者のゼネラル・ストライキ（武器、弾薬、交通その他）とともに最も積極的な形態の民衆の⁽¹²³⁾実力行使 agitation と行動 action である。」

これが世に言う「ケア・ハーディ－ヴァイアン決議案」であり、コペンハーゲン大会で最も注目を浴びた決議案として語り継がれる。

ヴァイアンはシュトゥットガルトでは原則を決めたが、今回は手段を定めなければならないと主張した。また現時点における最大の戦争の危機はイギリスとドイツの対立であることを指摘し、もはや理論を論じている場合ではなく戦争を阻止することが問題となっている。我々は仲裁をのぞんでいるが

(121) *Ibid.*, pp. 195-199

(122) *Ibid.*, p. 201

(123) *Ibid.*, p. 202

仲裁はひとりではやって来ない。社会主義者の行動がそれに続かなければならない。シュトゥットガルトでは戦争への反対を宣言したが、今は行動に、プロバガンダに移らなければならない。ケア・ハーディは戦争の場合にはすべての労働者は働くのを拒否するべきであると言った。シュトゥットガルトで戦争に反対するためにあらゆる手段を用いることを採択したが、ゼネラル・ストライキと蜂起は極端な手段であるが、それに頼るしかない、彼は主張した。⁽¹²⁴⁾

1910年にはイギリスとドイツの海軍増強計画が競われていた。ヴァイアンが現在における最大の危機であると指摘したのは両国のとどまるところを知らない軍艦建造競争であった。そして1911年以降アガディール事件とイタリアのトリポリタニア占領によるイタリア-トルコ戦争に続いて、2度のバルカン戦争というヨーロッパを戦争の瀬戸際に立たせた事件が相次いで起きる。

9月1日木曜日第3回会議

ファン・コル議長は今日議論を終結させることが絶対に必要であり、発言者の持ち時間を10分に限定した。最初に発言したケア・ハーディは「もし我々の動議が採択されなければ、大会の前に提示されます」として次のように発言する。もし戦争が布告されたならば社会主義や議会での行動は不十分になり、労働者階級は極端な手段で行動をとらざるを得なくなる、大砲や軍需品を作ることを拒否し、鉄道を走らせ軍艦に石炭を運ぶことやめるであろう。もちろん他の交戦国の労働者階級と協力しなければ行動できないと主張した。⁽¹²⁵⁾

セルビアの代表トゥコヴィッチ TUCOVICH はボスニア-ヘルツェゴヴィナ併合にセルビア社会党が反対運動を行ったときに、オーストリアとハンガリーの社会主義者の十分な支援を受け取れなかったので、資本主義国の同志は抑圧に苦しむ国の同志が植民地と征服の政策と闘うときには連携を求め

(124) *Ibid.*, pp. 201-202

(125) *Ibid.*, pp. 202-203

る決議を提出した。既に第1次世界大戦前夜を予見させる状況が生まれていたのに注目するべきである。スウェーデン代表のカーレソン CARLSON はデンマークとノルウェーをも代表して戦争を阻止するために極端な手段をもちることに賛成である、議会では完全軍縮を提案していると述べた。ベルギーの代表ドゥビュヌ DEBUNNE はケア・ハーディ・ヴァイアン修正案に賛成だがドイツの党が法的訴追を受けるので賛成投票は出来ないと表明した。オーストリアのレンナーは自国で帝国主義に反対しており、完全軍縮に賛成だが常備軍を廃止すれば無防備にさせるので不可能であると述べた。⁽¹²⁶⁾

諸提案について採決が行われ小委員会案はイタリアの反対1票をのぞき満場一致で採択された。ケア・ハーディ・ヴァイアン修正案は賛成51票対反対131票で否決される。賛成票はフランス12票、イギリス20票、ロシア7票、ポーランド5票、オランダ1票、ノルウェー6票の合計51票であったのに対し、反対はドイツ20票、オーストリア18票、ボヘミア7票、イタリア15票、アメリカ14票、スウェーデン12票、デンマーク10票、スイス10票、ハンガリー6票、フィンランド8票、オランダ7票の合計131票、棄権がベルギーとブルガリアであった。⁽¹²⁷⁾ 賛成票を投じると意思表示したスウェーデンとデンマークは反対に回り、フランスやロシアなどは議決権行使票数を満たしていない。

ここでボヘミアから投票結果に異議が出され、またケア・ハーディは本会議で少数派案として提案すると発言し、ドイツのレデプールもこれを認めた。

次の議事日程「大会諸決議執行を保障するために採る手続き」に移る。もし2か国か複数の国の間で紛争が起き当事者の党が逡巡や遅滞があった場合、1か国以上の求めに応じて国際社会主義事務局書記局は国際社会主義事務局会議と列国社会主義議員委員会を招集するとしたフランス社会党の決議案と、大会は大会決議を執行させる適宜な通達を作成することが困難な場合には各国の党に決議執行の方法と時期について委ねるがあくまで執行はもと

(126) *Ibid.*, pp. 205-210

(127) *Ibid.*, pp. 211-212

めるとするオランダのファン・コルとフリーゲン VLIEGEN 決議が出され、両方の決議案が満場一致で採択されて、委員会は終了した。⁽¹²⁸⁾ オランダの提案にはドイツ社会民主党 SPD の各党の独自の判断を尊重させようとする意向をくんだものであった。

4. 第 4 委員会 (労働者立法と失業)

8 月 29 日月曜日第 1 回会議

第 4 委員会の議題は「労働者立法と失業」であった。議長にはノルウェーのオルセン OLSEN が指名された。議長は失業問題を最初に審議するとしてフランス社会党 SFIO 大会での決議を提出した。この決議は失業が資本主義生産様式と資本主義の発展、そして女性と児童の産業への参入、そして労働者移民の移入の変動によってもたらせるが、労働者階級の抵抗と闘争の力でこの災難を弱め減少させることは労働者階級にかかっており、このための国際的行動を行い、統計を作成し失業に対する対策を公共の事業によっておこない、労働時間を削減し、社会保障を向上させるという趣旨であった。

既に失業保険制度がカリウム製造部門で存在するドイツのモルケンブールからは、残業や日曜労働による労働強化ではなく労働時間の削減によって失業対策を政府に求めていることが報告された。ベルギーのからは労働組合の積立基金による救済制度があるが財源が不足しており、公共権力が介入するにしても労働組合の自由を守ることが重要であるとの主張があった。オーストリアからは失業によって賃金引き上げや労働時間短縮の闘争が不可能になっているが、失業保険は公的で法的な制度にするべきであり、また雇用主が部分的に失業保険を支えるべきである。同じ数の労働者を恒常的に雇用する企業の税負担を少なくし、季節的労働や不正規雇用で残業や長時間労働の企業は多くの税を払うべきであるなどの問題があるが、年間を通じての正規雇用と失業の削減をもとめることが重要であり、失業保険のため労働組合は闘

(128) *Ibid.*, pp. 212-213

1910年の社会主義インターナショナル第8回コペンハーゲン大会とフランス社会党第5回トゥルーズ大会（1908年）、第6回サンテティエンヌ大会（1909年）、第7回ニーム大会（1910年）の歴史的考察（2・完）（横山謙一）

30 (211) う必要があるとの発言があった。イギリスのマクドナルドからはこの決議では弱すぎ、生存権と労働組合による適正賃金 *salaire syndicale* (*fair wage*) を求める必要があると主張した。ケルチ QUELCH もマクドナルドの発言を支持した。同じイギリスのヒックス HICKS からは解決をもたらすのは失業保険制度ではなく労働者の組織化であり、1894年からこの方途は議論されてきた、もし政府に大公共事業を求めるにしても、同時に労働組合の賃金表による賃金を要求しなければならないと発言した。⁽¹²⁹⁾

失業や労働形態の問題に及ぶと失業保険制度など各国の制度が多様であり、要求を一元化させるのは難しかった。

8月30日火曜日第2回会議

この日も失業保険についての議論が続いた。多くの修正案が、特にストライキ中の労働者やロックアウトされた労働者の失業保険について出されて、小委員会で議論することになった。審議の間に、オーストリアのブラウンから小委員会の決議案が出された。この決議案は失業が資本主義生産様式と不可分であり、この廃絶なしには失業は無くならない。大会は労働組合が管理し費用を雇用者が負担する全面的義務加入の保障制度を求め、公共権力に労働組合に労働組合の独立を損なわない失業保険のための助成金を支給することを求める、労働者階級の議員は失業統計と労働組合が定める賃金を失業者が支給される大規模な公共事業、経済危機の時期の失業基金への特別助成金、労働組合が協力する職業紹介所の設置、立法による労働時間の削減を公共権力に要求するという趣旨の文案であった。イギリスやドイツ、ベルギーから文面の修正が求められ、スウェーデンからは失業の原因として女性と児童が挙げられたことに異議が出された。アメリカの代表からは外国人移民によって失業を膨大に増加しており、保守派は移民禁止法案の宣伝のために用いているが、移民増加が現地労働者の状況に不利な影響を与えているとの表

(129) *Ibid.*, pp. 214-220

現は認めている。決議文は修正案を検討するために小委員会に送り返さ⁽¹³⁰⁾れた。

8 月 31 日水曜日第 3 回会議

この日、再び小委員会の新しい決議案が委員会に提出された。その内容は資本主義生産様式では失業は廃絶できないがその結果の減少と緩和は可能であると、失業によって政治的権利の縮小を行わないことと労働取引所の設置と財政支援、失業保険の要求があらたに書き加えられただけで殆どかわり映えしない文案であった。

オランダのシャーパー-SCHAPER からは支配階級が財源不足を口実に決定した改善立法が実施されてないことを非難する決議案が、スウェーデンからは女性の夜間労働の禁止を男性にも適用する決議案が、さらにボヘミアからは労働者立法を認めさせる政治と労働組合の力を獲得するとうたう決議案⁽¹³¹⁾が提出され、全体を満足させる決議案が小委員会にもとめられた。

9 月 1 日木曜日第 4 回会議

この日の審議では、モルケンブールが短い説明をしたあとに、アムステルダム大会とシュトゥットガルト大会の決議を改訂した失業保険についての決議案が提出された。彼は労働者の行動によって労働者保護と労働者保障の立法についてより多大な利益を勝ち取ることが出来ると付け加えた。スイスのライヘスベルク REICHESBERG からは女性と 18 歳以下の若年の夜間労働禁止を要求することが求められた。また家内労働について決議に書かれていないとの指摘があった。ハンガリー代表のローテンシュタイン ROTENSTEIN は以前に要求された提案のうちいくつかの提案は委員会の求めで決議に書き加えられたし、すべての国に利害関係を持つ改革を特定の国の特別の改革に従わせることは出来ないと主張した。委員会は決議の文言で一致を見ることが出来ない場合、小委員会に送り返して最終的な決議案を作り全体

(130) *Ibid.*, pp. 220-225

(131) *Ibid.*, pp. 225-230

1910年の社会主義インターナショナル第8回コペンハーゲン大会とフランス社会党第5回トゥールーズ大会（1908年）、第6回サンテティエンヌ大会（1909年）、第7回ニーム大会（1910年）の歴史的考察（2・完）（横山謙一）

32 (209) ⁽¹³²⁾
会議に提出することを決定した。

5. 第5委員会（諸決議）

8月29日月曜日第1回会議

始めにエレンボーゲン ELLENBOGEN 議長は日本の労働者の組織化を妨げる容赦のない手段をとる日本政府に抗議する、議事日程にはないフランスのロンゲの決議を提出したが、オーストリアのザイツ SEITZ は委員会が国際社会主義事務局を執行する委員会であって決議案を起草する委員会ではないので国際社会主義事務局に付託すると提案して、賛成29票対反対21票で可決された。次に各国社会党の統一を勧告するフランス社会党の決議案が提出されたが、同じフランスからポール・ルイ Paul LOUIS は国際社会主義事務局が仲介の労を執ると書き加えたもう1つの決議案を提出し、満場一致で可決・採択された。⁽¹³³⁾

8月30日火曜日第2回会議

はじめにロシアの代表からフィンランドの抑圧についての決議案が遅ればせに出されたが、後回しにされて、小委員会の「ペルシアの状況」についての決議案が提出された。その内容は英露協定に基づきペルシアの立憲革命をロシアのツァーリ政府があらゆる手段を用いて失敗させるために武力干渉をおこない、ペルシアとトルコの立憲主義を嫌悪して絶対主義を復活させようとしているのでこれを阻止すると言うものであった。さらに「トルコの状況についてのサロニカ（テッサロニキ）労働者の決議」が提出された。その内容はトルコに対するヨーロッパの植民地政策によって、トルコ政府が労働者の労働組合権とストライキ権を侵害しているが、ヨーロッパ諸国の資本主義的植民地主義的政策に対するバルカンの民主的合意による闘争が新生トルコに広範な自由を与えることでトルコに生まれた社会主義運動に応えることが

(132) *Ibid.*, pp. 231-232

(133) *Ibid.*, pp. 233-235

できるというものであった。ルーマニアのラコフスキ RAKOVSKY は青年トルコ党の反動的な政策に反対するべきであり、同党は過大評価されていると指摘し、オーストリアのザイツはヨーロッパ諸国の資本主義的植民地主義的政策にたいし民主的で立憲主義的な急進的改革で闘うとした修正案を提案した。今日の視点からは不思議なことであるが、のちにアルメニア人虐殺主導した青年トルコ党運動は労働運動の組織化を可能にしたとしてアルメニアの代表ヴァランディアンは肯定的に評価した。バルカンを代表してラコフスキは小委員会の設置を提案したが反対24票対賛成12票で否決され、ヨーロッパ諸国の資本主義的植民地主義的政策にたいし、民主的で立憲主義的な急進的改革を求めて闘うとする青年トルコ党の反動的労働政策を非難する「トルコ⁽¹³⁴⁾の状況についての決議」が可決された。

国際社会主義事務局に付託された「日本についての決議」は審議のため委員会に再提出され、専制的絶対主義と資本主義的暴虐が混合した日本政府の政策を糾弾する新提案が議決された。決議案提出直前に日本の片山潜が日本政府によってヴィザの交付を拒否されて大会に出席できなかったニュースが⁽¹³⁵⁾報告された。

続いて「アルゼンチンについての決議」が審議され、アルゼンチンの寡頭政治が普通選挙制を踏みにじり、労働者を弾圧したとして非難する決議が採⁽¹³⁶⁾択された。

8月31日水曜日第3回会議

この日の会議の冒頭で、ロシアとフィンランドからロシアのツアーリズム政府がフィンランドの自治 *autonomie* と自由を抑圧し、帝国の属国とする政策を非難する決議を提出した。ロシア社会革命党のルバノヴィッチは、この決議案はもともとフランス社会党が発案しロシアの社会主義諸政党が決議

(134) *Ibid.*, pp. 235-241

(135) *Ibid.*, pp. 241-242

(136) *Ibid.*, pp. 242-244

案として書き上げて委員会に提出したと発言した。フィンランドの議会は3度相次いで解散されたが世界を驚かす民主主義を作り出し、比例代表制度の普通選挙制度と女性参政権などをもうけ、選挙では200議席中フィンランド社会党は半数近い86議席を獲得したと報告した⁽¹³⁷⁾。フランスのロンゲはフィンランドでのツァーリズム政府の反動的政策に抗議するデモンストレーションが国際社会主義事務局 BSI の主導で行うことを提案し、ローザ・ルクセンブルクもこれに賛同し、「フィンランドについての決議」はロンゲの提案を含めて採択された⁽¹³⁸⁾。

委員会は次の議案に移り、ポーランドの代表から「死刑についての決議」が提出された。それは刑法分野で責任能力のない個人に対してばかりではなく多くの死刑の規定があり、政治犯にも死刑が適用されているとして死刑に抗議する運動と広範な議論を大会は要求するとした決議案であった。これに対しドイツ社会民主党 SPD から同じ趣旨で決議案が出された。死刑は中世の野蛮な遺物であるとしてブルジョア合理主義は非難してきたが、昨今ブルジョアジーは死刑に対する闘いを放棄して死刑を必要なものとし、ロシアなどでは労働運動の弾圧にも軍事法廷で用いられるようになった。プロレタリアートの代表者は死刑制度に反対し、議会や政治集会において社会主義者の報道で死刑制度の廃止のプロパガンダを行う、とする決議案であった。ポーランド代表は提案を取り下げて、ドイツ社会民主党 SPD 案を支持した。国際刑法学会ロシア支部が死刑制度に満場一致で反対したと主張したロシアのルバノヴィッチの発言と死刑を廃止したオランダのような国にも復活させるべきであると述べた最近のベルギーでの国際犯罪学会を批判するオランダ代表の発言を含めた死刑についての決議は全聴衆の長い拍手によって満場一致で可決された⁽¹³⁹⁾。

次にロンゲとローザ・ルクセンブルクからカタルーニャでのモロッコへの

(137) *Ibid.*, pp. 244-247

(138) *Ibid.*, p. 247

(139) *Ibid.*, pp. 247-254

干渉に反対する行動に対する弾圧を非難する決議が拍手と満場一致で採択され、全体会議への報告者としてエレンボーゲン⁽¹⁴⁰⁾が選出された。

青年トルコ党政府の反動的行動についてバルカン諸国の党から再提案されたが「殺人 assassinat」と言う語をほかの言葉に置き換えることをエレンボーゲン議長からトルコの代表に提案され、修正された決議が拍手で採択された。「軍縮についての決議」は国際社会主義事務局に付託され、当該の委員会で審議することをもとめた。「船員のストライキについての決議」は「国際連帯」を扱う委員会に送られた。「アジール（保護地）についての決議」では政治亡命者の権利が侵害され、犯罪者引き渡しが行われていることに抗議する決議が拍手で採択され、委員会の作業はすべて終了した。ところが8月29日の各国社会党の統一を勧告するフランス社会党の決議案「社会主義統一の決議」にブルガリア社会民主党の『『狭隘派 étroits』の宣言』と『『広範派 larges』の宣言』の2つの宣言が提出されて、これらを議事録に付け加えることになった。『狭隘派』党派は自分以外の党派は社会主義の党派ではなく統一に値しないとするもので、一方『広範派』党派は他の2つの『自由主義派 libéraux』と『進歩派 progretistes』との統一が必要であるとするものであった。⁽¹⁴¹⁾要するにブルガリア社会民主党の内部抗争が表面化したことを示した。

6. 国際社会主義事務局第4回・第5回・第6回会議

5つの諸委員会が開催されてから9月1日の全体会議が開始されるまでの第4回・第5回・第6回の3回に及ぶ国際社会主義事務局会議の審議内容を以下にまとめて要約する。9月1日に開始される大会全体会議が開始された以降の同会議については第3節で審議内容を紹介する。式次第では午前9時に国際社会主義事務局会議が開催され、午前10時から諸委員会と全体会議が開催されるので前日の会議で係争事項となった問題は基本的に翌日の国際社

(140) *Ibid.*, pp. 254-255

(141) *Ibid.*, pp. 259-261

会主義事務局会議で審議されることになる。ちなみに大会全体会議は審議が長引いた委員会が少なくなかったために予定より1日遅れて9月1日から開催されることになった。

8月29日の国際社会主義事務局第4回会議

この日もチェコの労働組合問題で議論は始められた。始めにオーストリアのアドラーが発言してオーストリアでは諸民族が自律した政党を認められているが、労働組合は国際的に組織されており民族別ではなく、オーストリアという国家の枠内で組織されているし、問題とされたチェコの代表として認められるべきであると擁護した。ネメッツはこの問題には直ぐには答えられない、審査は自分たちの管轄の外であるとして審議は火曜日に延期された。⁽¹⁴²⁾

つぎにルーマニア社会民主党のラコフスキー国際社会主義事務局代表の書簡を事務局書記が読み上げた。彼はブルガリアの党の統一をはかるために統一を働きかけたが『狭隘派』は妥協しないので失敗に終わった、国際社会主義事務局執行委員会が直接ブルガリアの党に働きかける必要がある、彼らの分裂は正当な理由がない、『広範派』は選挙で妥協したと言うが彼らは最近の5年間にこの政策を取り下げて『狭隘派』の選挙スローガンを容認している、このもめ事は党ばかりか労働組合にも影響を及ぼし、バルカン諸国の党は『広範派』との関係を絶たれている、『狭隘派』はセルビアの党との合意の下に最近のバルカンの会議から『広範派』を追放に成功し、そのためルーマニアとマケドニアの党がこの会議に参加できなくなったと訴え、他国に及ぼす影響は深刻であると指摘した。⁽¹⁴³⁾

8月30日の国際社会主義事務局第5回会議

事務局書記はエジプト全国大会がインターナショナルにエジプト独立を支持することをもとめる書簡を読み上げた。またケア・ハーディとジョレース

(142) *Ibid.*, pp. 408-411

(143) *Ibid.*, pp. 411-412

がフランスで逮捕されイギリスにことを引き渡されたインド人の政治亡命者サヴァルカルを支持したが、全体一致で決議委員会（第 5 委員会）に付託することを決定した。⁽¹⁴⁴⁾そしてまたもチェコ問題が持ち出され、ネメッツが資格審査で認められなかった 7 名の参加資格を認めるとしたら、党の自律に対する侵害であると言い、アドラーは排除された 7 名は資格審査の条件を十分に満たしており有力な党員で資格を与えられるべきであると擁護した。再び同様な応酬が繰り返されたただけであった。議長のヴァンデルヴェルドは同様な問題が前回大会でベルギーについて起きたが、我々は支部のメンバーであることを認め問題は解決した、チェコの問題は微妙であるが問題の 7 名を大会に参加させることを支持すると述べ和解を試みた。ロシアのルバノヴィッチはヴァンデルヴェルドの意見に賛成して和解を勧めたが、ネメッツは譲らず、アドラーはネメッツの気持ちは理解できるとしながらも 7 名が支部への加入が認められなければ彼らのために付設支部 *sous-section* を結成すると圧力をかけて物別れに終わった。⁽¹⁴⁵⁾

オランダのトルールストラはこの問題を扱う第 2 委員会が 3 時に始まるので、臨時的に 7 名を代表に指名する案を提出し満場一致で採択された。チェコの代表は棄権した。⁽¹⁴⁶⁾そして第 2 委員会での泥仕合は準備された。

さらにアメリカの社会主義者の内紛が持ち出されてアメリカ社会労働党のデリオン DE LEON はシュトゥットガルト大会決議に基づいて統一を模索したがアメリカ社会党は拒否したと発言した。ヒルキットはこれに反論し、デリオンの党はもはや存在しない、3,000 名の党員がいるのを信じたとしても我が党の 6 % にすぎず実際には 2 % 程度であると見積もって、名前だけの党であると断じた。ローザ・ルクセンブルクは発言に立って国内問題には立ち入らないが、ヒルキットが言うようにアメリカ社会労働党が存在しなくなったのであるならばアメリカ社会主義の大きな危機である、ロシアの例を見

(144) *Ibid.*, p. 412

(145) *Ibid.*, pp. 413-416

(146) *Ibid.*, p. 416

れば得票数だけで判断は出来ないが事務局の代表を彼らから取り上げることが出来ないし、現状維持を支持すると発言した。

議長はアメリカ社会労働党の現状維持を提案して賛成13票対反対10票で可決され、アメリカの票の配分はアメリカ社会党9票、アメリカ社会労働党1票、ビール醸造労働者の労働組合2票、他の労働組合組織2票と決められた。⁽¹⁴⁷⁾

次にイギリス労働党と同時に独立労働党を代表するケア・ハーディとマクドナルドに事務局の委員2名が割り当てられイギリス社会民主党 Social Democratic Party⁽¹⁴⁸⁾（旧称「社会民主同盟 Social Democratic Federation」）は排除されていると抗議するイギリス社会民主党 SDP の宣言を議長は読み上げ、イギリス支部ではケルチが36票、マクドナルドが42票でケルチが少数派となったが、送られてきた代表の数によるものでこの結果を事務局は認証することはできない、社会民主党が事務局に代表を持つことは必要であるし、マクドナルドはイギリス社会主義議員団の代表であり、さらに労働党の代表になることは出来ないと付け加えた。マクドナルドはイギリス支部はフェビアン協会、労働党、独立労働党、社会民主党 SDP の4党から構成されており、最強である労働党が国際社会主義事務局 BSI に代表を持っていない、そして自分が議員団代表として国際社会主義事務局委員であることは知らない、この問題はイギリス支部に付託するべきだと発言した。議長は大会期間中はマクドナルド、ケア・ハーディ、ケルチが事務局委員の地位を維持すると述べた。ケルチはマクドナルドに反論してイギリスには社会民主党 SDP とそれ以外のもう一つの党しかない、マクドナルドとケア・ハーディは労働党と独立労働党の両党に属している。社会民主党 SDP のみが社会

(147) *Ibid.*, pp. 416-419

(148) 1907年のシュトゥットガルト大会まで社会民主同盟 Social Democratic Federation と呼ばれていたハインドマンの党はこの大会では社会民主党 Social Democratic Party (SDP) と改称していることが議事録から確認できる。cf. HAUPT, Georges ; *La Deuxième Internationale. 1889-1914. Étude critique des sources. Essai bibliographique.* Paris. La Haye. Mouton. 1964. p. 382.

主義政党であるとの立場を鮮明にした唯一の政党であり、この党から事務局への代表権を取り上げるのは間違っていると主張した。ケア・ハーディはフェビアン協会を別にすれば3つの独立した政党がある、この決議はイギリス支部に付託すべきだと主張した。またマクドナルドが労働党議員団の資格で事務局の決議権を有していると聞いて驚いたと述べた。事務局議長はこれに対し国際社会主義事務局 BSI の委員が事務局規約を知らないことは残念である、議員団があるイギリスは3人の事務局への代表が認められていると指摘し、この決議をイギリス支部に付託するのに賛成であると発言し、認められた⁽¹⁴⁹⁾。イギリス支部の代表はしきりに唐突な発言や提案をして議事を混乱させる。大会や事務局会議の議論の流れを深く理解していないことが原因であると考えられる。

また日本の社会民主主義者の抑圧についての決議も第5委員会（諸決議）⁽¹⁵⁰⁾に付託すると決定した。

8月31日の国際社会主義事務局第6回会議

この日もまたチェコの労働組合の問題に立ち戻る。ネメッツは37名のチェコ支部の代表は何としても7名の代表を党に加入させることを受け入れられないとの宣言を読み上げ、この見解はチェコの代表全体一致の意見であり統一して大会に参加したチェコの党が分裂して帰るわけにはいかない、国際社会主義事務局 BSI の決定には責任を持たないがこれに従うと付け加えた。⁽¹⁵¹⁾

ジョレースはチェコの党を理解しながらヴァンデルヴェルド提案も受け入れて次のように言う。「付設支部を設置することについてのヴァンデルヴェルド提案がチェコの同志に受け入れなかったことを非常に残念です。第一に、支部がのぞまないメンバーを強制することは不可能です。つぎに際だっ

(149) *Huitième Congrès Socialiste Internationale. Compte Rendu Analytique. op. cit.*, pp. 419-422

(150) *Ibid.*, p. 422

(151) *Ibid.*, pp. 422-423

て国際主義的である傾向である以外の過ちをおかしていない代表を排除することは我々には出来ません。拒否された7名のために付設支部を作るというヴァンデルヴェルド提案は正しいのです。我々はそれによってチェコの党の統一を侵害することはまったくありません。もし提案によって加入を認められなかった代表を強制するかその代表を認めるのを拒否すれば、多分に統一を侵害することになります。事務局は全面的な責任を負って付設支部を設置する責任を負っています⁽¹⁵²⁾」と演説した。

ヴァンデルヴェルドは自分の付設支部を設置する提案は臨時的で大会期間のみ有効であると解釈した。アドラーはネメッシュの宣言から見てジョレースの提案が実態に対応していないと指摘し、チェコの党が分裂をのぞんでいないと宣言したのだから同党の分裂は避けるべきで、外部から見れば付設支部の設置は分裂と写るのであるから、チェコの代表は事務局の決議を受け入れると言っていることを考慮して、排除された代表の加入を認めるだけでよいと言った。ローザ・ルクセンブルクも分裂に見える付設支部を設けることに反対し、ただ排除された代表を認めるだけでよいとするアドラー案に賛成した。ヴァイアンはアドラー提案に賛成し、チェコの代表は何が最良かを表明するべきで、チェコの仲間が決議を最良と認めてほしいと発言した。ネメッツはヴァイアンが言うのはアドラー提案と同じであるが、チェコ代表の一致した見解として、チェコ代表の排除された代表には2票しか与えられず少数派にしかならないので統一は不可能であるが特別付設支部を設けないのが好ましいと言った。同じチェコのソウクブはチェコの票決は一つにまとめられると言い、それでも少数派が不服であれば事務局に訴えればよいと述べた。アドラー案はソウクブの解釈を採用した上で満場一致で可決された。議長はチェコとオーストリアの関係改善に仲介の労をとる必要があるとして木曜日まで審議継続⁽¹⁵³⁾とした。

ハンガリーの党でも資格審査で排除された2名から異議が申し立てられた

(152) *Ibid.*, p. 423

(153) *Ibid.*, pp. 423-425

が、2名は資格が無効とされた。アメリカで逮捕され犯人引き渡しが行われたロシアの同志についてはデリオンが起草した決議案が第5委員会に送られることになった。さらにポーランド支部からロシア領ポーランド中立労働組合に与えられていた票をオーストリア領ポーランド社会民主党に与えると決定したことが通知され、この日の会議を終了した。⁽¹⁵⁴⁾

第3節 9月1日以降の国際社会主義事務局会議の審議

1. 9月2日の国際社会主義事務局会議 第7回会議

またもチェコの労働組合問題がこの日も持ち出された。拒否された2名に2票を与えるかについてアドラーから質問が出され、ネメッツは事務局の決定に従うしかないと言明し、2票を与えると事務局は決定した。また列国社会主義議員委員会は今日開くのかと事務局書記から議長に質問が出され、議長は労働者年金と植民地政策を議論する重要な問題なので延期すると答えた。アドラーなどから反対されたが、列国社会主義議員委員会は延期されることが決定された。ポーランド社会党 PPS : Polska Partia Socjalistyczna はポーランド社会党革命派 PPS-Frakcja Rewolucyjna が社会主義人民党 PPS の名称を使うことは誤解を招くので抗議するという声明を議事録に添付することに事務局書記は合意した。さらにトルコのアルメニア人グループが事務局に加盟したいと求めてきたが、次回会議に付託することにした。⁽¹⁵⁵⁾

2. 9月3日の国際社会主義事務局会議 午前の会議 第8回会議

国際社会主義事務局会議の最終日となったこの日の会議ではイギリス支部が再び失業についての決議案の改善を求めたが、ジョレースが発言に立ち、イギリスの提案は正しいが他国にまだイギリスの文案が提示されていないと指摘し、委員会は翻訳に取り組み、事務局は次回会議の議事日程に入れるべきであると述べ、ヴァイアンはジョレースの提案に賛成した。さらにブラ

(154) *Ibid.*, pp. 425-427

(155) *Ibid.*, pp. 428-431

ンティングはジョレースとヴァイアン⁽¹⁵⁶⁾の発言に賛成した上で、イギリスは熱心に保留を行うべきだともとめた。しかし事務局書記ユイスマンスはイギリスがこの問題で報告を送ってこない唯一の国であると指摘し、ジョレースが言うように十分な準備が行われるべきであり、委員会の人選にも心を配るべきだときびしい指摘を行った。ジョレースはさらに発言し、失業のような重要な問題について事務局は討論の前に文案を十分に読んでおくようにさせなければならない。また大会は失業問題が例外的に複雑であり恒久的な研究を行わなければならないと宣言するべきだと主張した。

最後に次回インターナショナル大会の開催場所について審議が行われた。オーストリアのアドラーはウィーンで次回大会を開催する委任を受けていると表明し、開催年度の1913年には選挙があるのでインターナショナル創立50周年、パリ大会（第2インターナショナル創立大会）25周年を祝賀して1914年に開催したいが、事務局が決めるのであれば1913年でも成功させるために可能な限り全力を尽くすと約束した。ヴァイアンは2年おきに開催するのが原則であるが、今回は残念だが3年後でも受け入れると発言した。反対にスウェーデン社会民主党のブランティングは5年周期の大会開催を支持した。また代表の数を600人に制限するべきであると発言した。ドイツのエーベルトは1914年開催と参加代表の数の削減を支持した。議長は参加代表の数の制限に賛成したが、4、5年周期の開催に反対しフランス案に賛成した。アドラーは5年周期開催と1913年の妥協策であると強弁して1914年開催にこだわり続けたが、早期開催に反対しているわけではないと弁明し、結局は1913年開催を受け入れ1913年にウィーンで開催することが決まった⁽¹⁵⁷⁾。しかしオーストリアのちにインターナショナル創立50周年を1914年に祝賀するためとか、選挙があるとか色々な理由を持ち出して、1913年開催を反古にして1914年に延期する。そしてインターナショナル・ウィーン大会は幻の大会に、「失われた大会 *congrès manqué*」となる。第2インターナショナルの研究

(156) *Ibid.*, pp. 431-434

(157) *Ibid.*, pp. 434-436

者ジョルジュ・オープトは、オーストリアが1914年開催にこだわったのはチェコ問題が解決した後に大会を開きたかったのであろうと分析している⁽¹⁵⁸⁾。しかしチェコに限らずオーストリアが抱える民族問題でも最も先鋭化していたセルビアでの事件を契機に第1次世界大戦が始まり、開戦を目前にしたヴィクトル・アドラーの混乱と狼狽ぶりは国際社会主義事務局会議議事録に克明に残されている⁽¹⁵⁹⁾。

3. 9月3日の国際社会主義事務局会議 午後の会議 第9回会議

閉会式の手順について簡潔に議論を行い、発言者を指名した後で、事務局の要請で時間に急かされてユイスマンス書記がこの大会の会議で取り扱うことが出来なかった一連の問題についての書類が彼に渡され、彼はこれらを要約して国際社会主義事務局会議議事録の末尾に添付している。それら一連の問題とは、1. ポルコフスキー POKROVSKY がロシア社会民主労働党第3次ロシア議会（ドゥーマ）議員団によって事務局への代表として指名されたことを証明するレーニンの書簡、2. 1910年1月のロシア社会民主労働党が国際社会主義事務局に同事務局への代表としてプレハーノフとレーニンを（メンシェビキとボルシェヴィキの）統一の証として認めてくれるよう、大会代表にも両名を加えるよう要請する決定を行ったことを伝えるレーニンの書簡、3. ロシア支部の中に労働組合グループを設置せず労働組合に割り当てられた3票を行使しないことを伝えるロシア社会革命党ルバノヴィッチの書簡、4. オランダ社会民主党が議決権を保持した代表を維持するが事務局での票配分を決めるカウツキーとヒルキット決議の審議まで要求を延期する書簡、5. 既に労働組合で使用されている国際カードを便利なので政党でも使用することを提案したことを思いおこすよう呼びかけるイタリアの党員からの無記名の書簡、6. ガリシアとブコヴィナ在住ウクライナ社会民主党と

(158) HAUPT, Georges ; *Le congrès manqué. op. cit.*, p. 39

(159) *Compte rendu de la Réunion du BSI tenu à Bruxelles les 29-30 juillet 1914. Séance du Mercredi Matin, 29 juillet.* cité par *Ibid.*, pp. 252-253

1910年の社会主義インターナショナル第8回コペンハーゲン大会とフランス社会党第5回トゥールーズ大会（1908年）、第6回サンテティエヌ大会（1909年）、第7回ニーム大会（1910年）の歴史的考察（2・完）（横山謙一）

ロシア在住ウクライナ社会民主労働党執行委員会が連名で2党に大会と国際社会主義事務局に共同して加入することを求める書簡、7. フェビアン協会のサンダース SANDERS がイギリス支部の名前でケルチをすでに労働党の代表であるマクドナルドに代えて国際社会主義事務局への支部の代表に選出したと通知する書簡、8. 規模が大きい順に労働党と独立労働党からイギリス支部の国際社会主義事務局への代表を選ぶことを求めるサンダースの報告書を自分の書簡に添付して書記に事務局に手渡すことを求めた書簡、以上10通の資料⁽¹⁶⁰⁾を書記は受け取っており、大会議事録の末尾に添付した。いずれも信憑性は疑わしいとしてもユイスマンス書記が処理に苦慮するような内容の文書であった。

第4節 インターナショナル大会全体会議の審議過程

1. 9月1日木曜日第2回全体会議

スウェーデンのブランディングが議長を務める大会第2回全体会議は、9月1日木曜日午前10時45分から開始された。第1回全体会議は大会の開会式に割り当てられ、諸委員会（分科会）での審議が終えて委員会での最終的決議案が作成された順に最終的に裁可する第2回以降の全体会議にかけられることになる。この手順はシュトゥットガルト大会からの既定の手続きとなっていた。

最初に審議を終えたのは「労働者立法と失業」を担当した第4委員会であった。審議の前にブランディングが挨拶に立って、スウェーデン社会民主党が創立されたばかりの頃には新聞はすべて敵対的で労働者も赤旗を掲げる列に加わるのさえためらっていた時代を想起し、現在では35議席を有するまでに成長したと報告した。次に国際社会主義事務局書記のユイスマンスは一連の挨拶文を読み上げ、最後に70歳の誕生日を迎え、病のために大会に出席できなかったがベーベルが送ってきた挨拶文を紹介した。そして事務局が起草

(160) *Huitième Congrès Socialiste Internationale. Compte Rendu Analytique. op. cit.*, pp. 437-443

を委任されたベールに返事の電文を送ることが決定された。その後大会への代表総数が896名であったと発表され、続いて国別の代表者数が公表された。⁽¹⁶¹⁾ その主な数字は前述したが、前回総選挙で敗北して威信の回復を示す必要があったドイツが最大の189名で、次いで主催国のデンマークの146名、スウェーデンが3番目の86名、ノルウェーが9位の31名、フィンランドが13位の19名など北欧の代表数が多かったのは理解できるが、国内でのライバル党どうしの係争事項を抱えるオーストリア(65名)、イギリス(84名)、ボヘミア(44名)、アメリカ(24名)などの代表数が多かったことも注目に値する。特に遠隔地であったにもかかわらずアメリカからの代表数は多かった。一方、イタリア(9名)とスペイン(5名)からの代表者数は以前の回大会に比べての議決権数を考慮しても少なかった。これらの国々では逆に国内事情から党勢が衰退していた。

そして第4委員会の「失業について」の決議が委員会に提出され、報告者のブラウン BRAUN (オーストリア) が内容を説明する。この報告ではまず政府と社会、特に市町村による公共の全員が加入義務のある法に基づく失業者の保障を要求した。そして政治的権利を守り、恩恵ではなく権利として与えられるべきであることを求めた。この公共の失業対策のための公共事業を行う場合も賃金の減少をもたらさない「適正賃金 fair wage」が支払われることを、職業紹介所を設ける場合も、労働組合の失業対策基金と労働取引所に助成金が与えられる場合にも労働組合の自由を損なわないことを要求した。次に発言したイギリスのマクドナルドは委員会での発言と同じく「適正賃金」による労働の権利を要求するべきであり決議案は不完全であるが、時間がないので賛成投票をすると述べた。ブラウンは労働の権利と高い賃金は同じではなく、資本主義の廃絶によってしか失業は無くならないと部分的に反論した。イギリスのケルチはマクドナルドと同じ意見であるが決議案には反対で、イギリスの代表は反対か棄権の票を投じるべきだと主張し、クエ

(161) *Ibid.*, pp. 262–265

ルチとともにマクドナルドは棄権票を投じると意思表示し、フランスの多くの代表は棄権するとしてイギリスに同調したが、圧倒的多数で決議案は採択された。⁽¹⁶²⁾

午後の会議では議長がノルウェーのイエッペセンにかわり、第5委員会（諸決議）で審議された「統一についての決議」「死刑廃止の決議」そして「アルゼンチンについての決議」、「日本についての決議」、「スペインについての決議」、「トルコの状況についての決議」、「フィンランドについての決議」、「ペルシアについての決議」が提出されこれらの決議案を審議した。報告者であるオーストリアのエレンボーゲンは8決議に20分で報告するために要約すると前置きし、矢継ぎ早に8決議案について説明した。第5委員会での議論とほぼおなじ内容が説明されたが8決議案のうち3決議案がロシアのツァーリ政府に関係していると報告されたことが目新しかった。⁽¹⁶³⁾

審議にはいると社会主義の統一についてアメリカの代表デリオンはヒルキットのアメリカ社会党は統一に応じないと主張し、ヒルキットはデリオンが統一のための大会に参加しなかったと非難してあい譲らなかつた。同じようにブルガリア社会民主党『狭隘派』のクラロフ KOLAROFF はサロニカ（テッサロニキ）労働者の決議に賛成投票したことを正当化するものとしてヨーロッパの資本主義諸国とロシアのツァーリ政府がトルコのアブドゥル・ハミドの体制を維持しようと努力したが青年トルコ党によって倒された、しかし青年トルコ党政府も労働者の諸権利を認めない反動的政策を非難した宣言を提出したのに対し、『広範派』のサカソフ SAKASOFF はこの宣言はルーマニアとセルビアとブルガリアの2党派が同派のラコフスキの党をブルガリアの唯一の党であると認めた宣言で、クラロフは最後になってこれに加わったに過ぎないと主張すると、クラロフはサカソフの党とは徹底的に闘うと宣言し議長にたしなめられた。⁽¹⁶⁴⁾ このようにブルガリアの党でもアメリカでも

(162) *Ibid.*, pp. 265-274

(163) *Ibid.*, pp. 274-293

(164) *Ibid.*, pp. 293-300

統一の実現には道が遠かった。

2. 9月2日金曜日第3回全体会議

デンマークのクラウセンがこの日の議長になり、エレンボーゲンに最後の報告をさせ、前日の8決議が会場の拍手で満場一致を持って採択された。

次に第3委員会の報告者としてドイツのレデブールが「仲裁と軍縮」について報告した。彼はシュトゥットガルト大会以降の新しい事態の推移によって新しい決議を必要となったと認めたが、新しい事態とは一つにはブルジョアや君主政の政党による仲裁裁判所の設置であるが、この仲裁運動は低調になっていると斥け、ドレッドノート軍艦のような巨大な戦艦の出現は世界平和の脅威となっているとした。かたやドイツ政府が否定的に見る国際仲裁裁判所を軽視し、もう一方で英独の建艦競争が世界平和の脅威になっているのにイギリスの戦艦の例のみを挙げるレデブールの発言は少し恣意的であると見ることが出来る。決議はすべての国際紛争についての常設で義務的な国際仲裁裁判所を要求し、またスカンディナヴィアの諸党の求めで完全な軍縮を求めたと言う。そして彼は海軍軍縮と海洋の鹵獲権廃止を対の要求として求めたが、後者はイギリス軍艦によるドイツの商船に対する鹵獲権を取り上げるためだと持論を繰り返した。また自国以外の海軍二強国と同じ海軍力を持つこと⁽¹⁶⁵⁾にこだわってイギリスが海軍力増強を行っているとして批判した。そして抑圧された諸民族の独立の権利を支持した。この時はドイツが諸民族を抑圧していると認める社会主義者の立場に立ち返る。しかしオーストリアで200万人、ロシアで100万人のドイツ民族が抑圧されていることをも言及する。そして脅威となる紛争が起きた場合、国際社会主義事務局が関係諸国の社会主義者が共同の行動をとるようにもとめる諸措置をとることを決議にうたったことを報告した。次にケア・ハーディ-ヴァイアン決議案で戦争

(165) これをイギリスでは「二国海軍戦力基準 two-power standard」(2位・3位の海軍国と同じ海軍力を持つ基準)と称した。DUROSELLE, Jean-Baptiste ; *La France de la «Belle Epoque»*. *La France et les Français. 1900-1914. op. cit.*, p. 323

48 (193)

の脅威が高まった場合にゼネラル・ストライキを行うことを提案していることについて、すでにシュトゥットガルト大会で極端な手段を含めあらゆる手段をとると決定しているとし、各国の労働運動はこの手段をとる力量が十分ではないと反対する。またイギリスでは軍事予算に賛成しながら他国にゼネラル・ストライキを求めるのは矛盾であるとしてイギリスの党を批判した。ドイツ語で報告を行ったレデブールは自分の報告を英語でも行おうとしたが、ヴァイアンは違った演説になっていると反論し、ジョレースの求めで演説は英語とフランス語に通訳された。レデブールは原稿無しで2つの演説を行ったせいであると弁解し、フランス語への通訳をドゥ・マン de MAN に依頼した。多言語を話す事務局書記のユイスマンスは「こうして第3の演説が行われます」と発言し喝采を浴びた。⁽¹⁶⁶⁾そして書記は委員会から提出された決議案を読み上げた。

午後の会議では共同報告者であるケア・ハーディが演説を行った。彼は戦争に反対するばかりではなく軍国主義にも反対して闘っている、それは軍国主義が自由の反対物であり陸軍の職業軍人も海軍の職業軍人もブルジョアジーを守るため国家につかえているからだ、最初の非武装国家にしようと言うスカンディナヴィアの同志に敬意を表すると言う。イギリスが海軍力を増強するのはドイツがイギリスを侵略しようとして海軍を増強しているからで、ハーグ国際会議でイギリスが鹵獲権廃止に反対したのはドイツが商船を守るために海軍力を増強していることを口実としているが、我々は鹵獲権廃止のための闘いを止めないと、述べた。我々が予算に賛成するのは我々が要求する多額の社会改良の予算を含むものだからであり、イギリスでは軍事予算と社会改良の予算は分離されており、軍事予算には反対しており陸海軍の予算に反対するイギリス唯一の党であるとレデブールの発言の過ちを指摘した。さらにゼネラル・ストライキを掲げるのは戦争を阻止するためではなく、戦争を不可能にする実力を持っていることを示すためであり、一国では不可能

(166) *Huitième Congrès Socialiste Internationale. op. cit.*, pp. 302-315

で国際的に行わなければならないとした。さらにゼネラル・ストライキは正確には軍需産業部門のストライキであると言う。彼のいわゆるケア・ハーディ-ヴァイアン決議案は国際社会主義事務局に付託され、次回の大会に提案されると予告した。⁽¹⁶⁷⁾

ジョレースは決議案に賛成と反対の発言者を交互に発言させることを求め、最初にオーストリアのレンナーが発言した。彼はケア・ハーディ-ヴァイアン決議案に反対し、イタリアの党はゼネラル・ストライキが党を弱体化させるとして反対しており、ドイツ社会民主党 SPD は非合法化されると言っているし、このような決定を採ればオーストリアの党は戦争が布告されたならばあらゆる迫害の目標となって存在できなくなる。シュトゥットガルト大会決議はあらゆる手段で戦争を阻止するとうたっており、間接的にゼネラル・ストライキも含まれているが、それが有効な手段となるかはプロレタリアートの政治的経済的発展の度合い次第であり、この手段をとるかとならないかは各国の党の権限に任されており、次回大会で議論されることになるが、今ここで手段の問題をしりぞけることは出来ない。オーストリアは最近の 1、2 年で戦争の危機と闘っており、戦争前夜の状況においての国民全体の心理を知っており、この経験からゼネラル・ストライキを義務的手段として推奨する勇気を汲み取ることは出来なかった。最も先進的軍国主義であるオーストリアとドイツは軍事問題を熟知しており、あらゆる手段で軍国主義と闘う権利を持つ国民を説得する代わりに一つのなんらかの手段を決めることに大いに慎重である、と主張した。⁽¹⁶⁸⁾

イギリスのジョーンズ JONES はイギリス支部がケア・ハーディ-ヴァイアン決議案に全面的に賛成すると表明した上で、この決議は労働者階級に向けられているのではなく指導者に向けられている、労働党議員会議は海軍力増強に賛成しているからだ。我が支部では労働組合運動の最も穏健な指導者もこの手段に賛成している。南アフリカ戦争（ボーア戦争）時には我が党の

(167) *Ibid.*, pp. 318-324

(168) *Ibid.*, pp. 324-327

1910年の社会主義インターナショナル第8回コペンハーゲン大会とフランス社会党第5回トゥルーズ大会（1908年）、第6回サンテティエヌ大会（1909年）、第7回ニーム大会（1910年）の歴史的考察（2・完）（横山謙一）

50 (191) すべての党派が一致協力して戦争と闘い、インドなど諸民族の抑圧に反対したと述べた。⁽¹⁶⁹⁾

ベルギーのヴァンデルヴェルドはケア・ハーディ-ヴァイアン決議案に賛成であるが、インターナショナルが一致しなければ有効ではないとして、ベルギーは棄権しこの決議案を国際社会主義事務局会議に送ることに賛成であり、次回大会では満場一致で採択されるであろうと述べた。⁽¹⁷⁰⁾次にフランスのヴァイアンはレンナーとレデブールが仲裁と軍縮が戦争を阻止する手段ではないといったがまさにその手段であり、シュトゥットガルト大会決議はゼネラル・ストライキを認めており具体化したものであると反論し、ケア・ハーディ-ヴァイアン決議案が否決されればフランスとイギリス以外の党がゼネラル・ストライキに反対していると思われされる。実際にはそうではないのだから今回は決議されない方がよいとする妥協案を受け入れ、ヴァンデルヴェルドはヒルキットやローザ・ルクセンブルク、アドラー、ドイツのエーベルト EBERT などが署名したケア・ハーディ-ヴァイアン決議案を国際社会主義事務局に付託するとして決議を提案しケア・ハーディとヴァイアンも署名に合意してヴァンデルヴェルド決議は満場一致の拍手で採択された。レデブールは委員会案とヴァンデルヴェルド決議がスダン戦争40周年を記念し国際プロレタリアートが世界平和のためのデモンストレーションを行う日とすることを提案した。⁽¹⁷¹⁾なぜレデブールがスダンの戦いの日を挙げたのかは論議を呼んだが、一応独仏戦争の終結を意味したと受けとめられた。

次に、労働組合の統一を議論した第2委員会の決議についての議論が開始される。最初に、委員会の多数派と少数派の2つの決議案が提出される。多数派の報告者としてロシアのプレハーノフが報告する。チェコの代表は政党が民族別に存在するのであるなら労働組合も民族別に組織されるべきであると言うが、8民族から構成されるオーストリアでは闘争を弱体化させ混沌を

(169) *Ibid.*, pp. 327-328

(170) *Ibid.*, pp. 328-331

(171) *Ibid.*, pp. 331-335

招くとして、チェコの代表以外は国家単位に組織されるべきであるとした多数派案に賛成したと報告した。これに対し少数派の報告者チェコのネメツは、各民族の党と労働組合はともに一致して歩むべきであるとして反論した。もし1つの国家の枠内での組織化を言うならば、オーストリア労働組合委員会は中立的であり独立していなければならないが、それにはほど遠いと言う。しかしチェコ少数派は統一決議に賛成し、多言語国家のスイスも統一を勧告した。オーストリアのアドラーはもとよりロシアのプレハーノフも統一を勧告し、ますますチェコ多数派の孤立は深まった。

特にチェコの代表はインターナショナルの裏切り者であるとして非難する意見に強く反発したと言ったが、ブランティング議長は委員会にはそのような意見はなかったと付け加えた。

結局委員会案は賛成222票反対チェコ多数派の5票、棄権フィンランドの5票（残りの3票は賛成）とトルコ・アルメニアの2票の併せて7票で可決⁽¹⁷²⁾された。

4. 9月3日土曜日午前の会議 第4回全体会議

この日の会議はノルウェーのイエッペセンが議長を務めた。議題は「国際連帯」についてであり報告者は、スイスのフグラールであった。彼はこの議題についてスウェーデンとベルギーの2つの決議案を提出し、両者について説明した。最初のスウェーデンの決議案では前年のスウェーデンのストライキの際に大規模なロックアウトが行われて労働者が困窮した時にデンマーク、ノルウェー、フィンランドの北欧とドイツから多額の資金援助が行われたが、ベルギーとフランスからは少額の資金しか送られず、特にイギリスからは殆ど連帯の手が差し延べられなかったことが問題となった。フランスでは政党と労働組合の緊密な結びつきがなかったとベルギーの代表は自国でもロックアウトの最中であったとの説明があったが、イギリスの大規模で強力

(172) *Ibid.*, pp. 335-352

52 (189) な「トレード・ユニオン総連合 General Federation of Trade Unions」の態度が問題にされた。⁽¹⁷³⁾

審議が始まり、最初にイギリスのアンダーソン ANDERSON がイギリスに対する問題提起に答えた。まず最近までイギリスの党は労働運動への影響力を殆ど持たなかったし、他国の労働組合が持っている日刊紙をイギリスの労働運動は持たなかったので他国で起きていることを「トレード・ユニオン」は組合員に伝えることが出来なかったと説明した。加えて以前と違って、労働組合中央委員会が組合員の同意無しに決議が行われるまで財源を使うことが出来なくなったので、闘争が終わってしまうが、今度は労働組合の規約を変更して緊急な国際連帯の義務を果たせるように決定したと弁明した。そしてイギリスの労働組合は中央集権化しつつあり産業別職種別の国際労働組合連盟に加入し、産業別国際組合の創設によって国際連帯の行動が発展するであろうと付け加えた。ドイツのコーエン COHEN からは、イギリスの努力に賛同するが個人の意見ではなくイギリスの労働組合の名前で行われることが望ましいし、このような状況をイギリスの労働組合は最初から知っておりもっと早く対処するべきであった、と苦言を呈した。そして決議案⁽¹⁷⁴⁾に対する反対意見が出されず、会場の拍手で満場一致で採択された。

そして引き続き第4委員会のドイツ帝国議会議員のモルケンブールが報告を行う。彼は今日個人雇い主の従業員への恩恵の時代は終わり株式会社一般化し可能な限り大きな利潤を産み出すことが定めとなり、カルテル、トラストがリングに登場した、と指摘する。そのため我々の生命と健康を守る要求が筆頭に掲げられ、8時間労働制と夜間労働の禁止、日曜日休日制とそしてトラック・システム（現物支給給与制度）の禁止を要求した。連合した資本家は労働者集合住宅や企業内年金制度により恩恵の陰に隠れて労働組合結成権を不可能にしようとした。粉塵や火気、毒物の被害をうける特別に危険な職種の要求も付け加えられた。疾病者、（労災による）身体障害者、老齡

(173) *Ibid.*, pp. 353-356

(174) *Ibid.*, pp. 357-361

者、寡婦、孤児への保障は各国で十分に行われているであろうかと彼は問う。妊娠中や乳児を育てる女性の保護は緊急の必要事項であると言う。社会保障制度によって、健康な労働者を保持することによって資本家は利益を受けると報告した。⁽¹⁷⁵⁾

国際社会主義事務局書記は木曜日（9月1日）の失業についての決議に同意しなかったマクドナルドらのイギリスのより充実した保障を要求する対案を読み上げたが、イギリスの決議案を否決し、「アジールの権利についての決議」の審議に入る。イギリスのケア・ハーディはマルセイユで逮捕されイギリスに引き渡されたインドの革命家サヴァルカル SAVARKAR の事件を取り上げ、アジールの権利を擁護した。ブランティン議長は革命家サヴァルカルではなく政治亡命者サヴァルカルであると訂正した上で可決された。つぎにスペインとフランスのモロッコへの軍事介入を非難する「モロッコ問題についての決議」スペインとフランスの代表から提出され可決された。最後にレデブールから「ケア・ハーディー・ヴァイアン決議案」を詰問する宣言が出されて午前の会議を終了した。⁽¹⁷⁶⁾

午後の会議はクラウセンが議長を務め、社会主義青年が加盟することが国際社会主義事務局に次回事務局会議で審議されることと社会主義女性会議 la Conférence des femmes socialistes の諸決議を公式記録に載せることが書記から報告された。オーストリアのカルベレスからは生活協同組合についての補足の説明が行われ、生活協同組合の自律を認めるにしても党と労働組合との緊密な関係が重要であると念を押す発言をした。イギリス社会民主党 SDP のアーヴィング IRVING は、イギリスの生活協同組合は多くの反社会主義的で保守的自由主義的労働者から構成されており、生活協同組合は労働者の解放の手段とする決議文には反対であるが、決議文の精神には賛成する。しかしイギリスでプロパガンダが必要であるという点を考慮されていないことを批判したい。この批判は失業保険についても当てはまり、児童労働

(175) *Ibid.*, pp. 361-367

(176) *Ibid.*, pp. 367-372

の保護についても労働者保護についても決議は時代遅れで資本主義の利益になっているので、我々はこの生活協同組合についての決議にも、労働者立法の決議にも反対投票をすると表明した。オランダの代表ヴィバウト WI-BAUT はオランダとベルギー、フランスでは生活協同組合は政党と労働組合と緊密な関係を保持しており、金銭的支援も行っているが、オーストリアとドイツでは生活協同組合が政党を援助することが認められていないと指摘し、規約上生活協同組合が政党に援助することを認めるべきであると主張した。ドイツのフォン・エルムはイギリスの代表がイギリスではトレード・ユニオンと生活協同組合において社会主義が支配的ではないというが、イギリスの生活協同組合は労働運動に解放の闘争を支援しており、決議でこれらの組織に社会主義の思想を浸透させるべきであるとのぞむと発言した。デンマークの代表ボーグビヤウ BORGBJERG は、スカンディナヴィアの党を代表して生活協同組合についての委員会の決議案に賛成すると表明した。スウェーデンはドイツの意見に、ノルウェーはベルギーの案に賛成し、我らデンマークはその中間であるが党と生活協同組合の関係は決議案が示すのと同じであり、自律を支持するが両者は手を携えて社会主義の思想で歩んでいると説明した。オーストリアのカルベレスは決議案の修正をのぞまないし、決議案はベルギーの方法もドイツの方法も認めているし、イギリスで社会主義思想が生活協同組合に浸透していないというがスコットランドでは拠出金を政党に支払っていると指摘し、満場一致で決議案に賛成することをのぞんだ。票決の結果わずかな反対をのぞいて満場一致で決議案は採決された。⁽¹⁷⁷⁾

議長は次に次回大会開催地と年次について諮ると宣言した。事務局書記はオーストリアの一致した要求に従い、1913年にウィーンで開催することを提案した。アドラーは満場の拍手で迎えられて1913年にウィーンでの開催が認められれば大いなる光栄であると表明した。この提案は満場一致で認められた。⁽¹⁷⁸⁾

(177) *Ibid.*, pp. 372-387

(178) *Ibid.*, pp. 387-388

最後にモルケンブールとアメリカのヒルキットとジョレースが大会組織者に感謝の意を表する演説をおこなった。モルケンブールはまず大会組織者に感謝の意を表し、様々な歓迎行事で歓迎してくれたことに感謝し、最後に事務局書記のユイスマンスと通訳者に謝意を表明し、デンマークの組織から多くのことを学んだと帰国してもこれらを生かしたいと付け加えて挨拶を終えた。⁽¹⁷⁹⁾

アメリカのヒルキットは遠隔地にいることから日頃知己を得ることのない仲間たちと知り合えた、4,000マイルの距離を旅してきたが、3倍の距離でもいとわないと述べた後でアメリカの党を代表してデンマークの同志とユイスマンス書記とヴァンデルヴェルド議長に謝意を表した。⁽¹⁸⁰⁾

熱狂的の拍手で迎えられたジョレースはチェコ人とドイツ系オーストリア人の結びつきが絶たれないことをのぞみ、アドラーが言うように3年後にはウィーンではオーストリアの党が完全に統一されるという約束が守られるようにと願った。また生活協同組合の問題にも言及し社会主義の思想を生活協同組合に浸透させることを加盟する各国が推進することで統一されたと発言した。そしてアムステルダム大会での勧告無しにはフランスでの統一は果たされなかったと述べ、未だ統一が実現していない国に統一を勧めた。⁽¹⁸¹⁾

これに答えてスウェーデンのブランテイングと議長のクラウセンが返礼の短い挨拶を行い、ヴァンデルヴェルド国際社会主義事務局議長が閉会を宣言し、フランス人は「インターナショナル」を合唱し、オーストリア人は「労働の歌」を歌い、ドイツ人は「社会主義者の行進」を歌った。最後に全体で「インターナショナル」を合唱し、「インターナショナル万歳、革命的社會主義万歳」と叫んで会場を後にした。終了時刻は午後6時であった。その後コペンハーゲン市役所でのレセプションが設定されていた。⁽¹⁸²⁾

(179) *Ibid.*, pp. 388-390

(180) *Ibid.*, pp. 390-392

(181) *Ibid.*, pp. 392-395

(182) *Ibid.*, pp. 395-398

第4節 8月25日・26日にコペンハーゲンで開催された国際社会主義女性会議の諸決議と社会主義インターナショナルへの通知

社会主義インターナショナル・コペンハーゲン大会に先立って8月25日・26日にコペンハーゲンで開催された国際社会主義女性会議での諸決議はインターナショナル大会に通知され、大会議事録の末尾に収録された。社会主義インターナショナル・シュトゥットガルト大会と平行して行われた第1回国際社会主義女性会議に引き続いて行われた第2回会議で、この会議でドイツの社会主義女性クララ・ツェトキンがアメリカで行われた女性参政権デモンストレーションを記念して3月8日を国際女性デーにすることを提唱したことも知られる大会であった。この大会では「フィンランドについての決議」、「平和の維持を支持して」の決議、「女性普通選挙権」についての決議、「女性と子供の社会保険」についての決議、「生活必需物資高騰に反対する闘争」についての決議の5つの決議が行われ、社会主義インターナショナル・コペンハーゲン大会にコミュニケとして通知された。

「フィンランドについての決議」はフィンランドで一院制の男女平等の普通選挙制度が実施されていたが、ロシア・ツァーリズム政府と国内の富裕階級が民主的権利を廃止しようとしたのに対しフィンランド社会民主党に率いられる労働者大衆が政治的ゼネラル・ストライキを行い鎮圧されて政治的隷属状態に置かれたが、民主的諸権利を剥奪したツァーリズム政府に抗議する声明であった。⁽¹⁸³⁾

「平和の維持を支持して」の決議は社会主義インターナショナルの平和を維持する闘争を支持して女性に戦争の原因と根本を教育する義務があると呼びかける決議であった。⁽¹⁸⁴⁾

「女性普通選挙権」についての決議は女性の制限選挙権に反対して男女平

(183) *Ibid.*, pp. 487-488

(184) *Ibid.*, p. 489

等の普通選挙を実現することを社会主義諸政党に呼びかける決議であった。⁽¹⁸⁵⁾

「女性と子供の社会保険」についての決議は18歳以上の成人への8時間労働制と16歳から18歳までの若年労働者への6時間労働制、14歳から16歳までの子どもへの4時間労働制と14歳以下の子どもへの労働の禁止をもとめ、母子の健康を害する労働への雇用の禁止、市町村には出産施設と妊娠・出産・育児要保護女性 *asilée* 用施設の設置、専門看護師による産婦家庭援護サービス、授乳期に国家の保障が受けられない女性への助成金の給与などを、政府には疾病と母性保護保証保険と所轄市町村への補助金の支給、義務成人学校の育児教育プログラムでの育児教育と出産女性への授乳等についての教育を含む手帳の支給をもとめ、さらに世俗的で無料の乳児・保育施設の設立、無料学校給食の実施、妊婦の出産前、出産後8週間の休暇、平均給与換算の妊娠・出産・育児への補助金など包括的支援、さらには入浴・水泳プール・体育館・保育所の設置を要求する決議であった。⁽¹⁸⁶⁾

国際女性社会主義会議の5つの決議のうちでもこの決議の先進性と今日性は注目に値する。今日でも多くの国で要求され、ある国々では実現を見、ある国々では未だ要求されても実現されていない要求の項目を我々はこの決議の中に見いだすことが出来る。そして先進的な女性の運動が第2インターナショナルの中で誕生したことに、世界女性デーの起源もこの大会の決議に由来している事実にも注目したい。

「生活必需物資高騰に反対する闘争」についての決議は生活必需物資の高騰が家賃を含め困窮を招いており女性プロレタリアートに土地投機やトラストが原因になっていることに注意を喚起し、社会民主主義諸政党が物価騰貴と闘い、女性を加入させ、支持を受けることをもとめる決議であった。⁽¹⁸⁷⁾

(185) *Ibid.*, pp. 490-491

(186) *Ibid.*, pp. 492-495

(187) *Ibid.*, pp. 496-497

第5節 社会主義ジャーナリスト会議

1909年11月6日にブリュッセルで開催された第3回社会主義ジャーナリスト会議で次回の会議をコペンハーゲン大会にあわせて国際社会主義事務局会議が招集することを求めることが決定され、1910年8月30日に開催された。この会議にはドイツ、オーストリア、ロシア、フランス、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、アメリカなど18か国の86紙の記者が参加した。会議ではジャーナリストの給与面などでの待遇について議論することが決められ各国1名の発言者が認められた。

給与については、各国の記者から給与などの待遇が極めて劣悪であることが報告された。議論は業務における協力態勢にもおよび、各国特派員の本国への送信について協力がまったく欠如していることが指摘された。ドイツのアドラーからは各国2名から構成する委員会を作ってアンケートを作成し回答を事務局の機関紙「事務局報 Bulletin」に掲載して報道センターを設置する可能性を探ることが提案され、また報道センターに各国1名の特派員を指名する案なども出された。各国1特派員制度を設けてドイツに調整を委ねる案が採択され、18か国の特派員が指名され会議を終了した。⁽¹⁸⁸⁾ 国際的連携の体制は報道の分野にも広がったのである。

まとめとして

社会主義インターナショナル・コペンハーゲン大会を総覧して特に注目すべきは、チェコの労働組合に代表される第1次世界大戦後まで独立を実現できなかったオーストリア-ハンガリー二重帝国支配下にあったヨーロッパ少数民族の社会主義諸政党のナショナリズムが、第2インターナショナルの場において表面化したことである。この潮流は労働者階級の国際主義や国際

(188) *Ibid.*, pp. 444-451

連帯の錦の御旗によっても押さえ込むことが出来なかった。このことはロシア帝国やオスマン帝国の少数民族についても同様なことが言える。ロシア帝国の支配下にはポーランドやペルシアが存在したし、オスマン帝国のもとにはサロニカ（テッサロニキ）やアルメニアがあった。

シュトゥットガルト大会以降第 2 インターナショナル内部における勢力図が大きく変わった。シュトゥットガルト大会で反戦決議をまとめるために大きな貢献をしたフランス社会党の威信が高まり、次第にドイツ帝国に制約を受け続けるドイツの国内事情と理論的教条主義によって消極主義に陥ったドイツ社会民主党 SPD の主導権は弱まっていった。第 2 インターナショナルの先頭に立ってきたヴィルヘルム・リープクネヒトは 1900 年に、ジンガーはこの大会の後の 1911 年に死去し、バーベルはこの大会を病欠した後 1912 年の社会主義インターナショナル・バーゼル臨時大会には出席したが、1913 年にこの世を去った。ヴィルヘルムの息子カール・リープクネヒトは党内極左派となって、父のような党内での威信を引き継ぐことは出来なかった。ハーゼやレデブールの様な左派=国際主義者と党内官僚制を掌握するエーベルトやノスケ NOSKE の様な現実主義的保守主義者との対立する構図が、以前の正統派マルクス主義者対修正主義者の対立構図に取って代わっていく。そして第 1 次世界大戦中にドイツ社会民主党 SPD は「城内平和 Burgfrieden」に固執した党官僚主義守旧派からハーゼやレデブール、カウツキー、「修正主義者」のベルンシュタインは独立社会民主党として分裂する。カール・カウツキーは中間派マルクス主義者として理論家として以上の影響力は失われていく。

イギリスでは国際社会主義事務局の委員を長く務めていたイギリス社会民主党 SDP (旧「社会民主同盟」) のハインドマンは労働党のマクドナルドや独立労働党のケア・ハーディにイギリス国内運動の主導権を奪われ、アメリカでもアメリカ社会主義労働党のデリオンはアメリカ社会党のヒルキットに取って代わられる。イタリア社会党もアンドレア・コスタ Andrea COSTA は大会直前に死去し、当時改良主義者であったフィリッポ・トゥラッティ

Filippo TURATI は党内左派と争って敗れ実権を失っていて、有名な刑法学者エンリコ・フェリ Enrico FERRI は1908年以降政界から離れており、モルガリがコペンハーゲン大会時の党の指導者であった。シュトゥットガルト大会ではフランス社会党 SFIO 多数派對ドイツ社会民主党 SPD の対立の構図の中に第1次世界大戦中にツインマーヴァルト左派を構成するローザ・ルクセンブルクやレーニンのような新たな左派が姿を現した。そして今回の大会ではオーストリア・ハンガリー二重帝国のもとのチェコスロヴァキアやセルビアのような抑圧少数民族の諸党が声を上げはじめる。

そしてイギリスで戦争を非常手段に訴えてでも阻止しようとする急進派が誕生した。イギリスの労働運動はその規模の大きさと知られていたが、社会主義が労働運動に目に見えるほど浸透しておらず、穏健な党として注目されてこなかった。そのイギリスにケア・ハーディの独立労働党のような急進的反戦派が誕生したことはこれまで大きな国際社会主義の支持を得ることがないまま反戦平和運動を担って孤軍奮闘してきたフランス社会党 SFIO 多数派にとって大きな味方となったと同時に、慎重な現実主義的路線をとってきたドイツ社会民主党 SPD にとっては予想外の難敵に遭遇することになった。ケア・ハーディ・ヴァイアン決議案の採択を阻止するためにはドイツ社会民主党 SPD 左派のレデブールまで動員して反対の論陣を張る。

このコペンハーゲン大会の翌年の1911年は国際情勢の大きな転換点となる。この年のイタリアによるトリポリタニア占領に始まるイタリア-トルコ戦争とモロッコをめぐるアガディール事件は、ヨーロッパの全面戦争の危機感を強めた。翌1912年からは2度にわたるバルカン戦争はバルカンが世界大戦の火薬庫となったことを如実に示した。しかしこの戦争の脅威に立ち向かう第2インターナショナル大会は1913年から1914年に開催年度が延期され、次第に身動きがとれなくなっていく。そのために1912年に臨時大会がバーゼルで開かれることになる。この臨時大会は反戦の誓いの大会として歴史に名を残すのであるが、結局最終的に採択された宣言はケア・ハーディ・ヴァイアン決議案の採択には行き着かなかった。しかし問題はこの決議が採択され

なかったことではなく、ドイツ社会民主党 SPD が戦争の脅威を目前にして逡巡し動揺し確固とした反戦の態度をとれなかったことにあるのだ。世界大戦の開戦を目前に彼らの念頭をよぎったのは、これまで築き上げてきた党組織を壊滅させることへの恐怖にも似た不安であり、ツァーリズム政府の弾圧で常時党の解体の危機に瀕してきたボルシェヴィキの立場とは大きく異なっていた。またその内外の政策と幾度も対決してきたとはいえ、自国の共和国政府の平和主義的路線に信頼を失っていなかったフランス社会党 SFIO と違い、ドイツ帝国政府の妥協しない強硬な対ドイツ社会民主党 SPD への姿勢や、オーストリア-ハンガリー二重帝国政府のオーストリア社会民主党に対する政策を熟知していたこれら 2 党は、開戦時の両国政府が強圧的で非妥協的な政策を採用することを恐れていたのであった。やがてボルシェヴィキと彼らの周辺の左翼諸潮流から「第 2 インターナショナルの裏切り」・「第 2 インターナショナルの解体」と非難を浴びることになる。果たして党組織の解体を覚悟の上で反戦平和の姿勢を貫いて戦争を阻止できたかという大きな問題が残る。それが歴史は多くの偶然の所産であるにしても、時間を巻き戻すことのないと言う点で歴史の必然性と一回性は否定しようがないが、失敗の歴史であっても第 2 インターナショナルが反戦平和のために多大な努力を行った事実は消し去ることを出来ない。また 1917 年のボルシェヴィキ革命はそのアンチテーゼに転化することになるが、第 2 インターナショナルの歴史の文脈から生まれた歴史的事件であったことを否定するべきではない。そして世界の社会主義・社会民主主義諸政党は、特にヨーロッパの社会民主主義政党は、この時代の歴史的経験を背負っており、このことは打ち消すことが出来ない事実である。